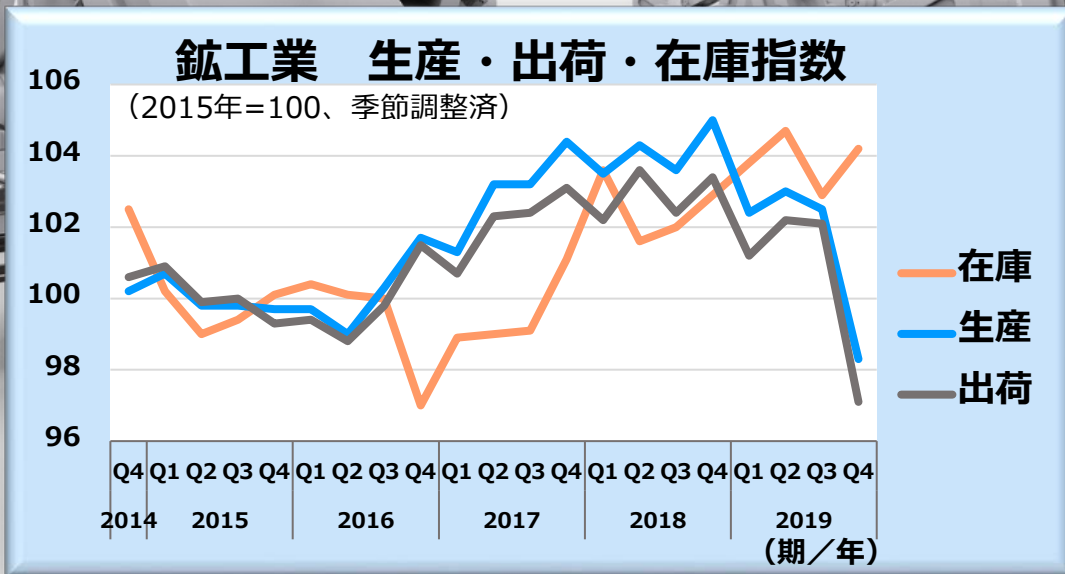


近年の鋳工業の動向

鋳工業指数、鋳工業出荷内訳（四半期）、
製造工業生産予測指数（月次）からみた動向分析



経済産業省
経済解析室
2020年2月25日

ニ経済分析URL：<https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html>

本資料の狙い

- 鋳工業生産は近年、2017年、2018年と上昇を続けたものの、2019年は一転、前年比マイナス2.9%の大幅な低下となりました。
- 2019年は、世界経済の減速や、米中貿易摩擦等をめぐる不透明感、消費税率引上げ、大型台風による被災等、我が国鋳工業は様々な変化に直面した一年でしたが、近年の鋳工業の動きの背景を探る観点から、最近の鋳工業の動向をグラフの形で整理したミニ経済分析『近年の鋳工業の動向』をまとめました。

鋁工業指数 (2019年12月分確報値)

鋁工業出荷内訳表 (2019年12月分)

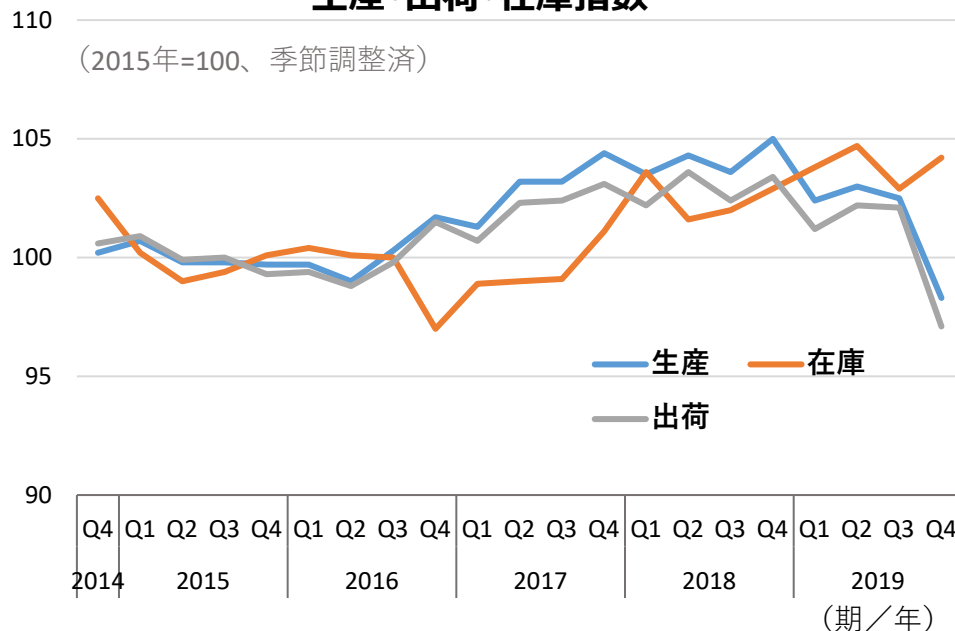
(2019年 第4四半期)

鋁工業の動向 (1～8)

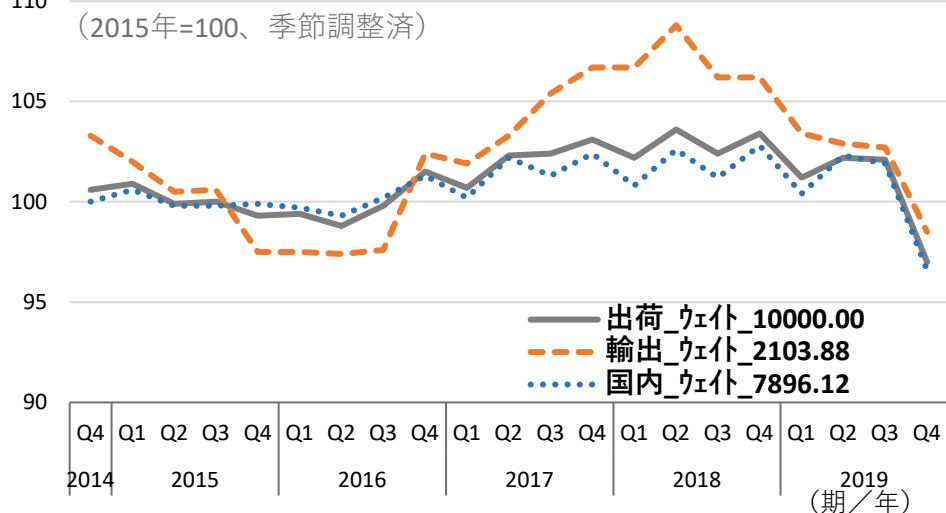
業種別の動向

鋳工業の動向（1 / 8）

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳（国内向け／輸出向け）

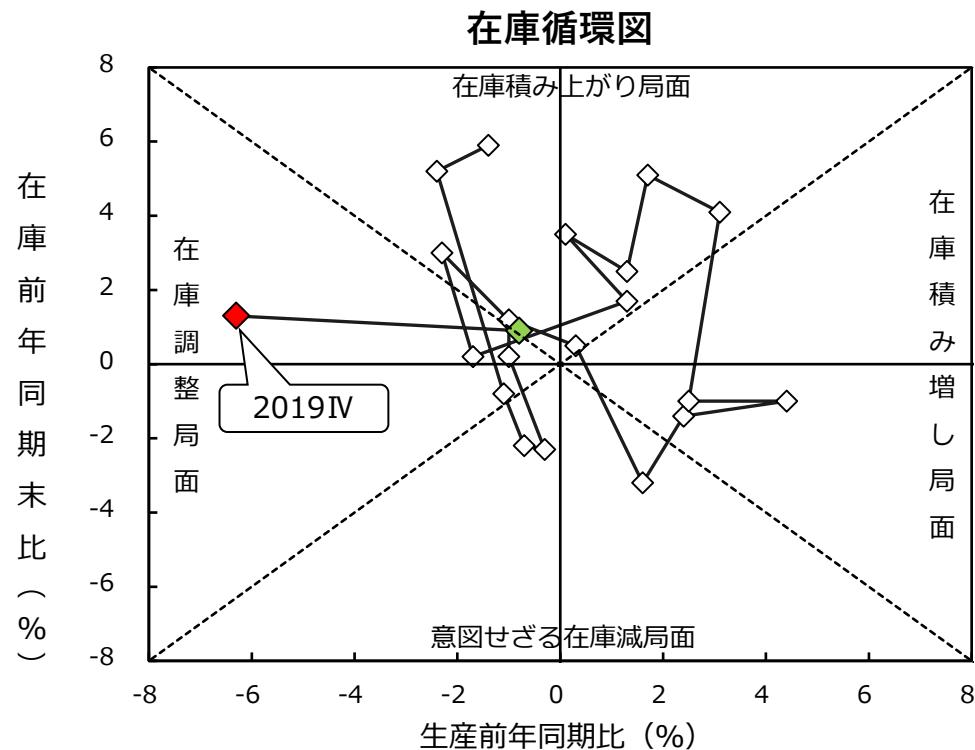


ここ数年は上昇傾向で推移してきた鋳工業生産・出荷であるが、2018Q3から輸出向けが低下し、2019Q4では国内向け・輸出向けとも大幅に低下。在庫は高水準であるが、2019Q4は在庫積み上がり局面から在庫調整局面へ。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は2期連続の低下
 在庫指数は2期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は4期連続の低下
 国内向け出荷指数は2期連続の低下
 ※最新期の鋳工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

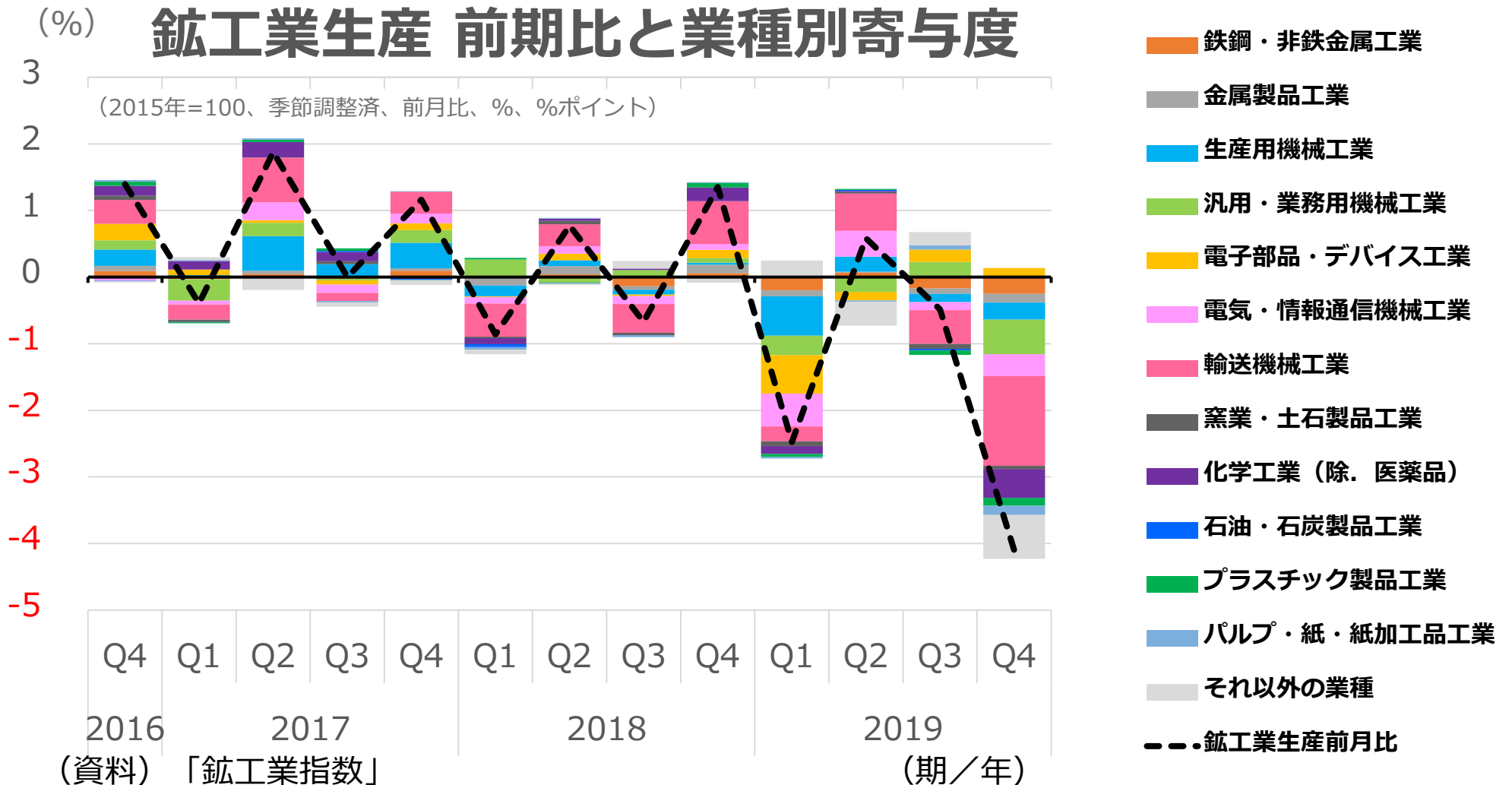
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



(資料) 「鋳工業指数」、「鋳工業出荷内訳表」

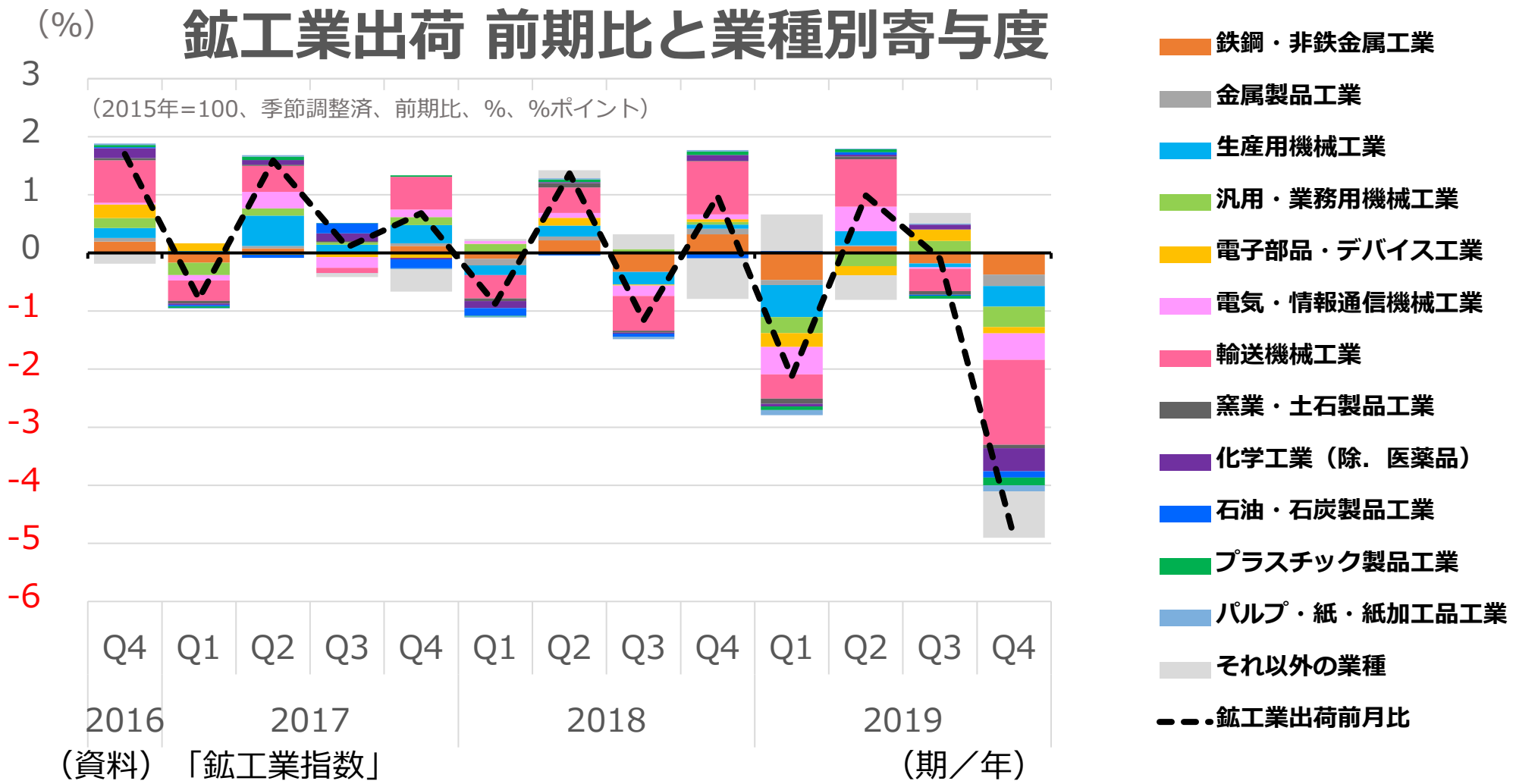
鋳工業の動向（2 / 8） 鋳工業生産の前期比と業種別寄与度

鋳工業生産（業種別）をみると、2019Q1は生産用機械工業、電子部品・デバイス工業等ほとんどの業種が低下寄与。Q2は上昇したものの、Q3、Q4と2期連続の低下。大幅低下となった2019Q4は輸送機械工業を始め、ほとんどの業種が低下寄与。



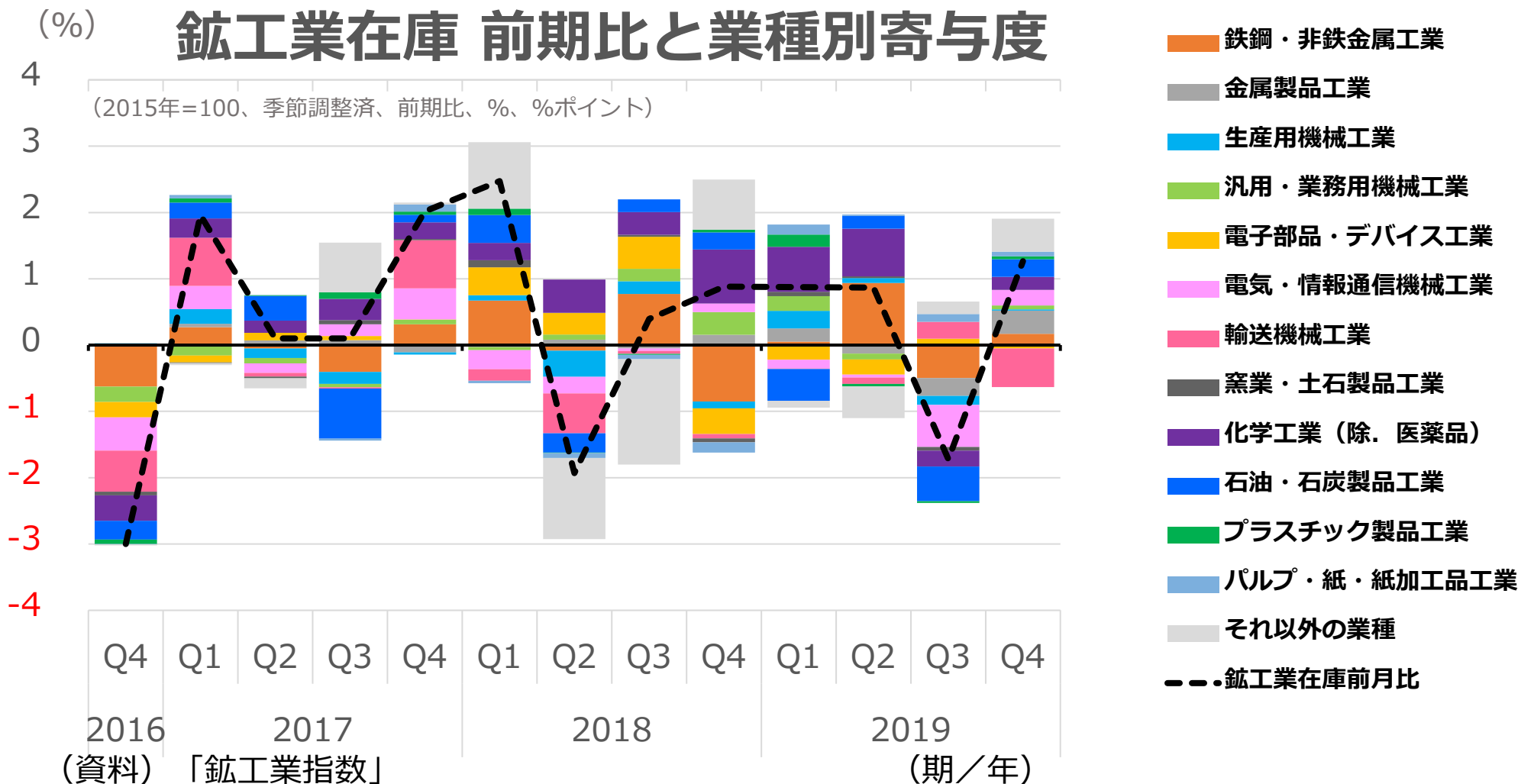
鋳工業の動向（3 / 8） 鋳工業出荷の前期比と業種別寄与度

鋳工業出荷（業種別）をみると、2019Q1は生産用機械工業、電子部品・デバイス工業等ほとんどの業種が低下寄与。Q2は上昇したものの、Q3、Q4と2期連続の低下となった。大幅低下となった2019Q4は輸送機械工業を始め、すべての業種が低下寄与。



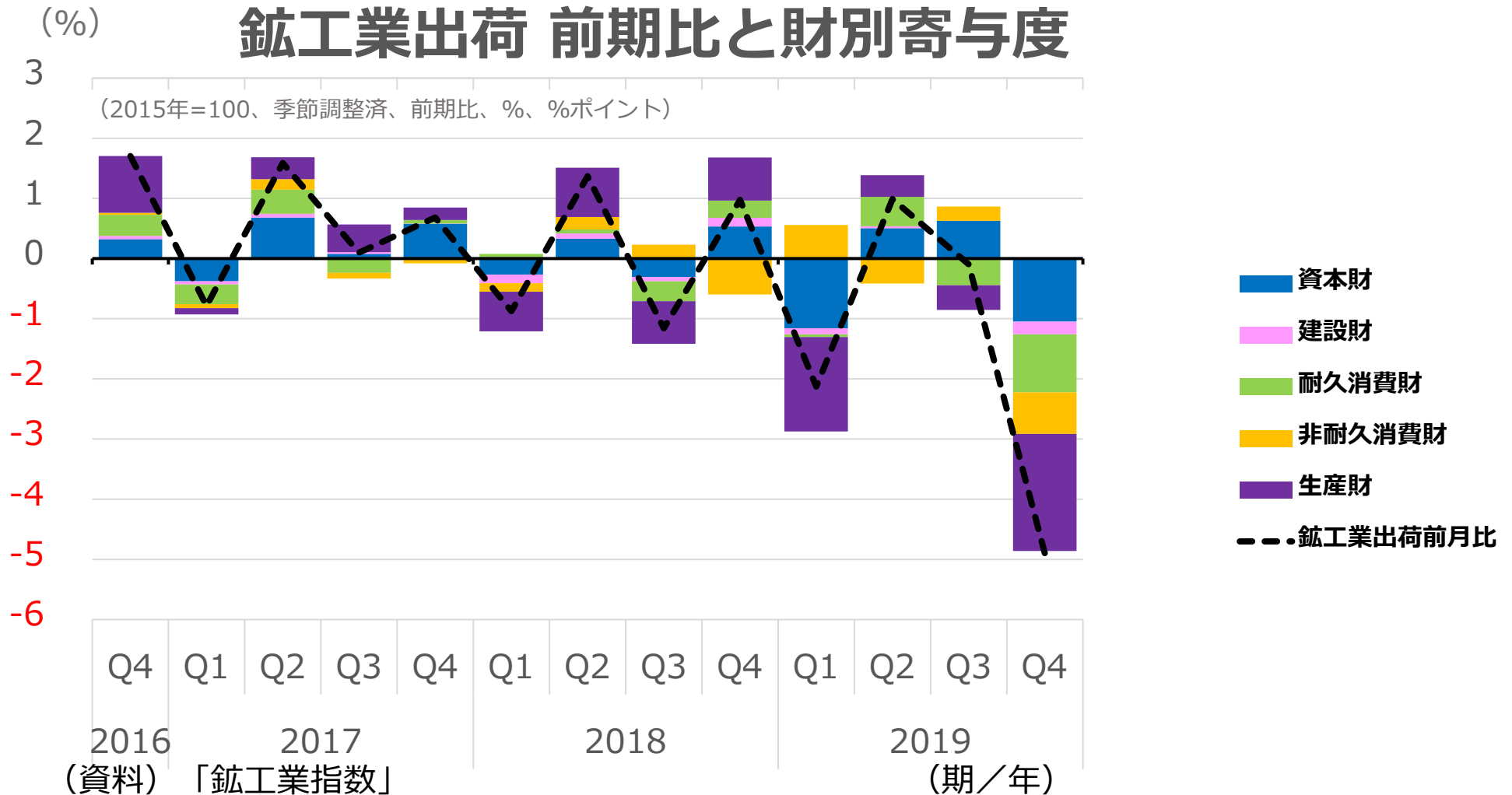
鋳工業の動向（4 / 8） 鋳工業在庫の前期比と業種別寄与度

鋳工業在庫（業種別）をみると、2018Q3以降の4期連続上昇では、化学工業（除. 医薬品）の寄与が目立つ。2019Q3は電気・情報通信機械工業、石油・石炭製品工業等の寄与により5期ぶりの低下となったが、2019Q4は再び上昇。



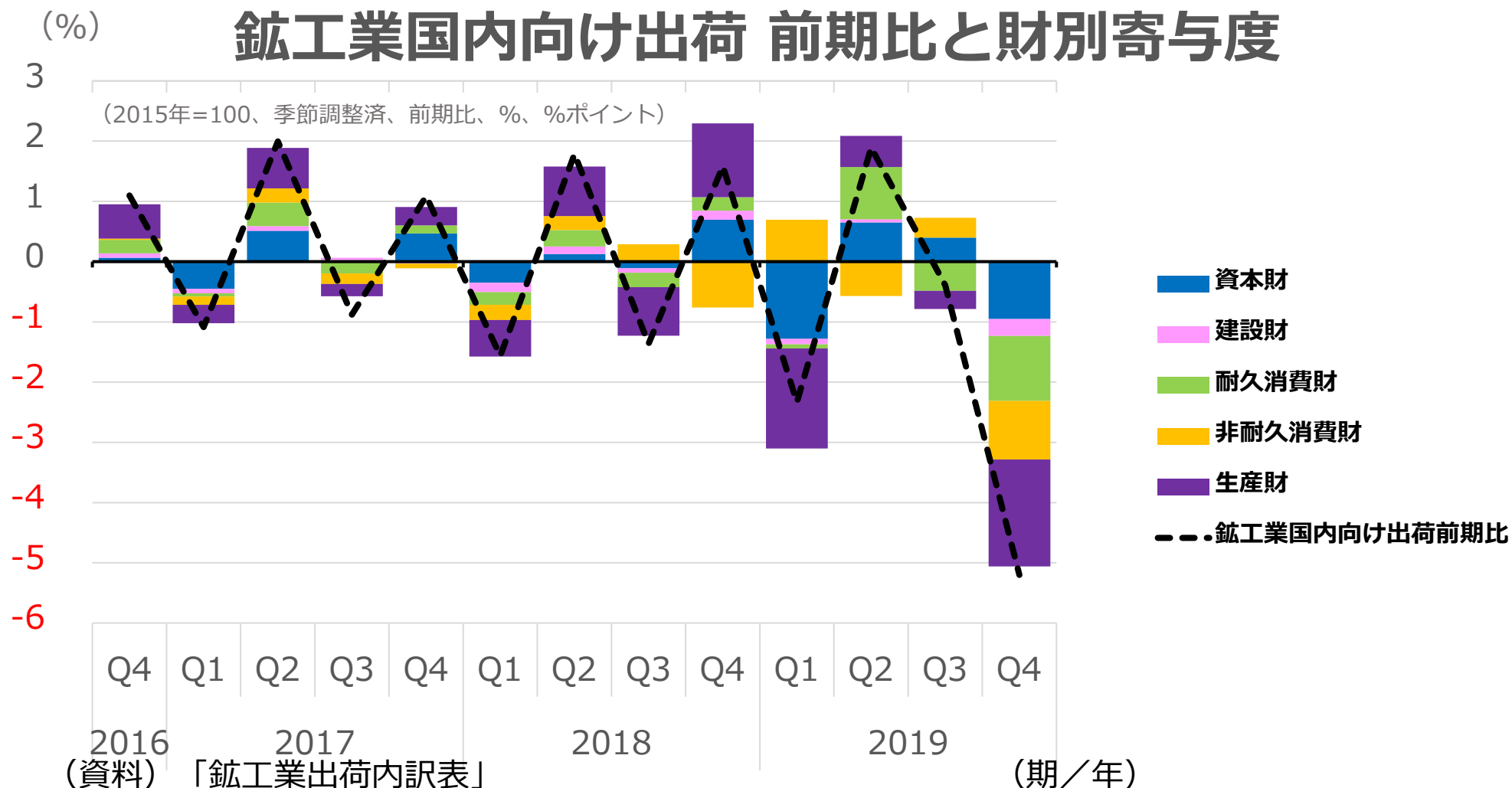
鋳工業の動向（5 / 8） 鋳工業出荷の前期比と財別寄与度

鋳工業出荷（財別）をみると、2019Q1の低下には生産財、資本財が大きく寄与。
2019Q4は生産財を始め、すべての財が低下に寄与し、大幅低下。



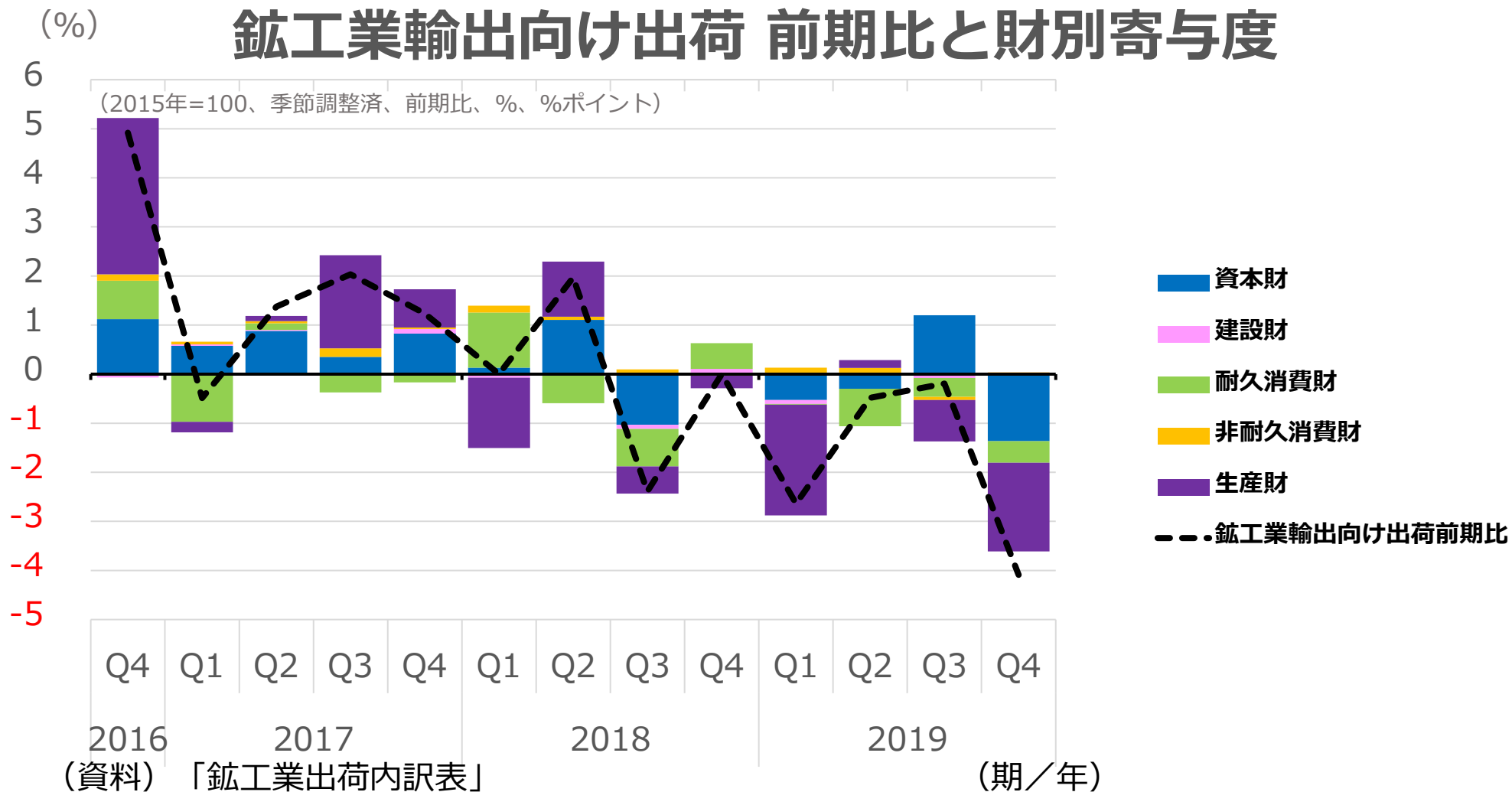
鋳工業の動向（6 / 8） 鋳工業国内向け出荷の前期比と財別寄与度

鋳工業の国内向け出荷（財別）をみると、2019Q1の低下には生産財、資本財が大きく寄与。
 耐久・非耐久を合わせた消費財全体では、2019Q3から低下。2019Q4は生産財を始め、すべての財が低下
 に寄与し、大幅低下。



鋳工業の動向（7 / 8） 鋳工業輸出向け出荷の前期比と財別寄与度

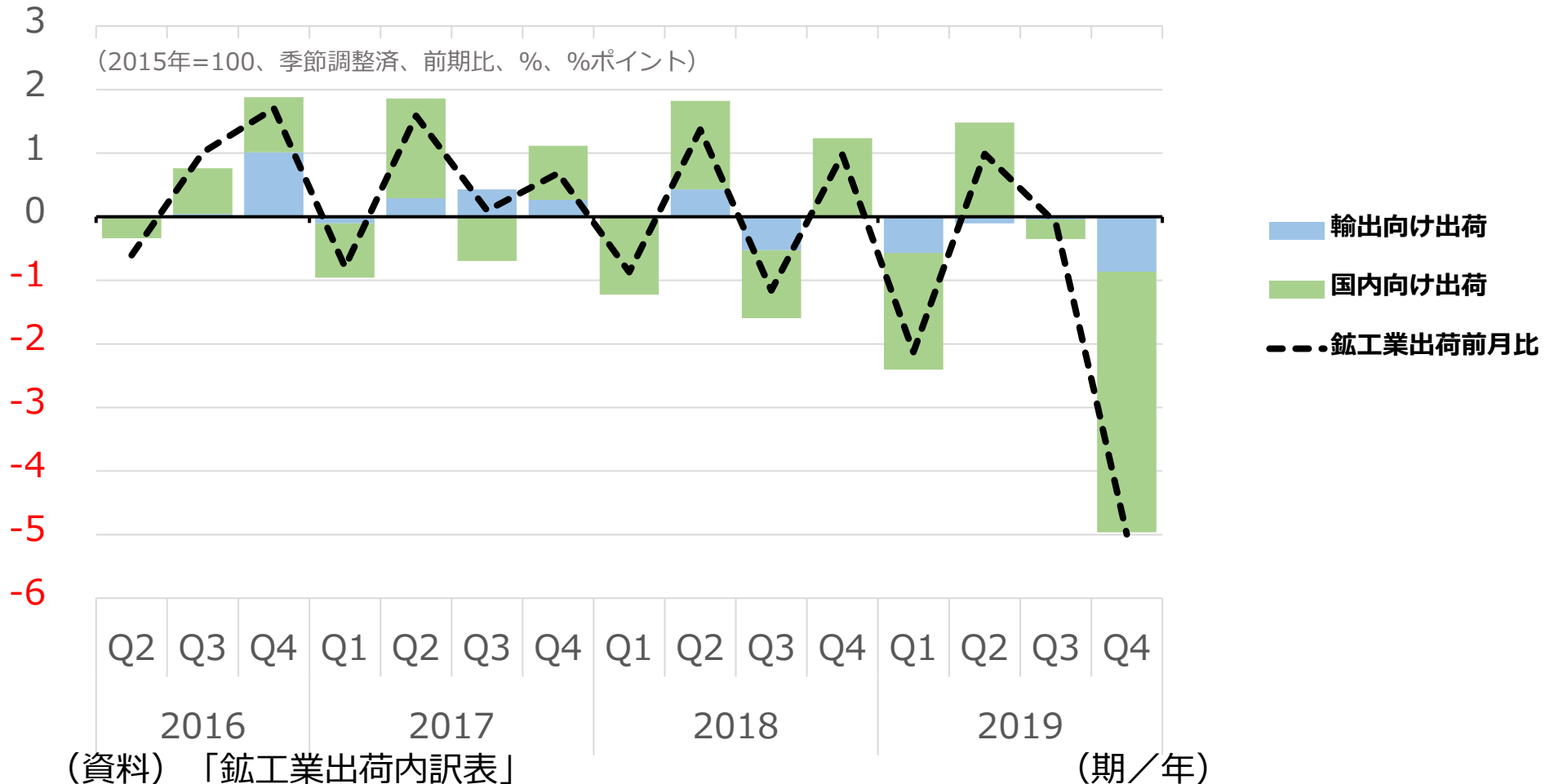
鋳工業の輸出向け出荷（財別）をみると、2019Q1の低下は生産財が大きく寄与。
2019Q4は生産財、資本財等、すべての財が低下。



鋳工業の動向（8 / 8） 鋳工業出荷の前期比と国内向け/輸出向け寄与度

鋳工業出荷を国内向け/輸出向け別にみると、2019Q4は国内向けが低下に大きく寄与（2期連続）、輸出向けも低下寄与（4期連続）。

(%) 鋳工業出荷 前期比と国内向け/輸出向け寄与度



業種別の動向

鉄鋼・非鉄金属工業の動向

金属製品工業の動向

生産用機械工業の動向

汎用・業務用機械工業の動向

電子部品・デバイス工業の動向

電気・情報通信機械工業の動向

輸送機械工業の動向

窯業・土石製品工業の動向

化学工業（除. 医薬品）の動向

石油・石炭製品工業の動向

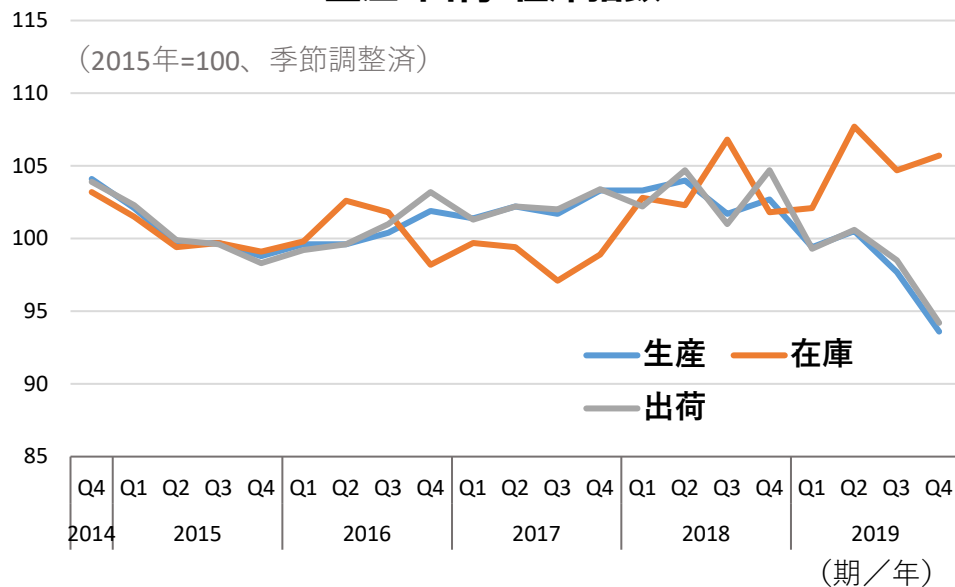
プラスチック製品工業の動向

パルプ・紙・紙加工品工業の動向

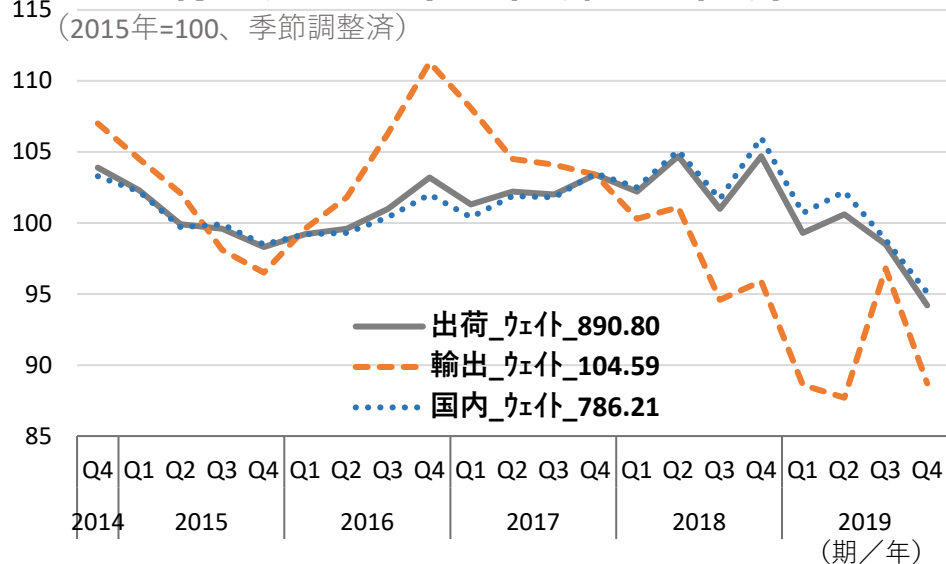
その他工業の動向

鉄鋼・非鉄金属工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

- ・生産は2018Q3以降、低下傾向。生産の低下を受け、在庫は上昇傾向。
- ・輸出向け出荷は2017Q1以降、非鉄金属精錬・精製品等の低下により急落。一方、国内向け出荷は堅調に推移してきたものの、2019Q1以降は低下傾向に。
- ・生産の2019Q3・Q4は、熱間圧延鋼材、鉄鋼粗製品等、ほとんどの品目が低下。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下

出荷指数は2期連続の低下

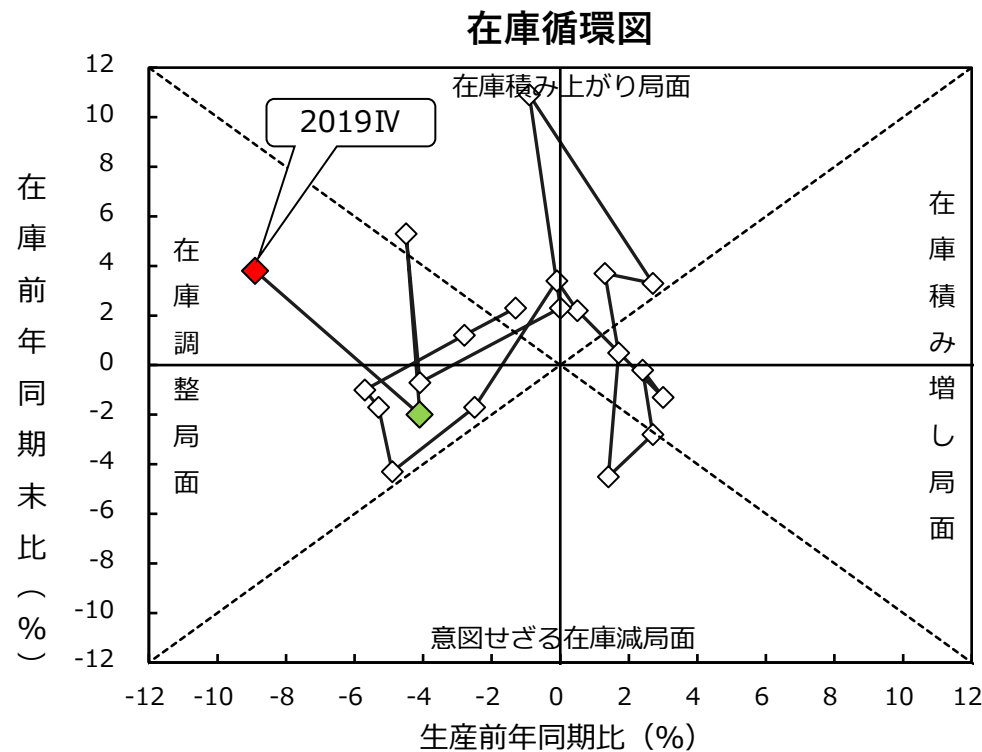
在庫指数は2期ぶりの上昇

輸出向け出荷指数は2期ぶりの低下

国内向け出荷指数は2期連続の低下

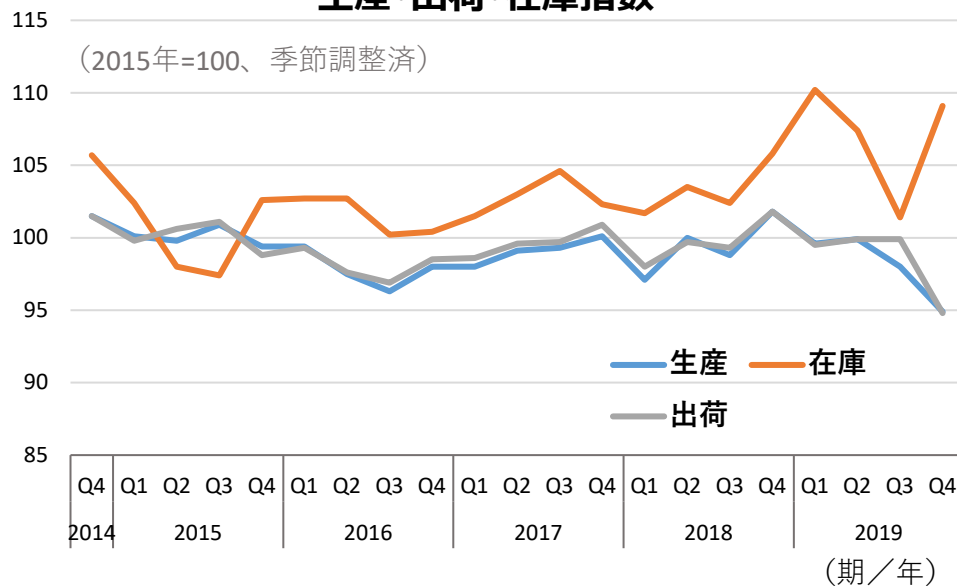
※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面

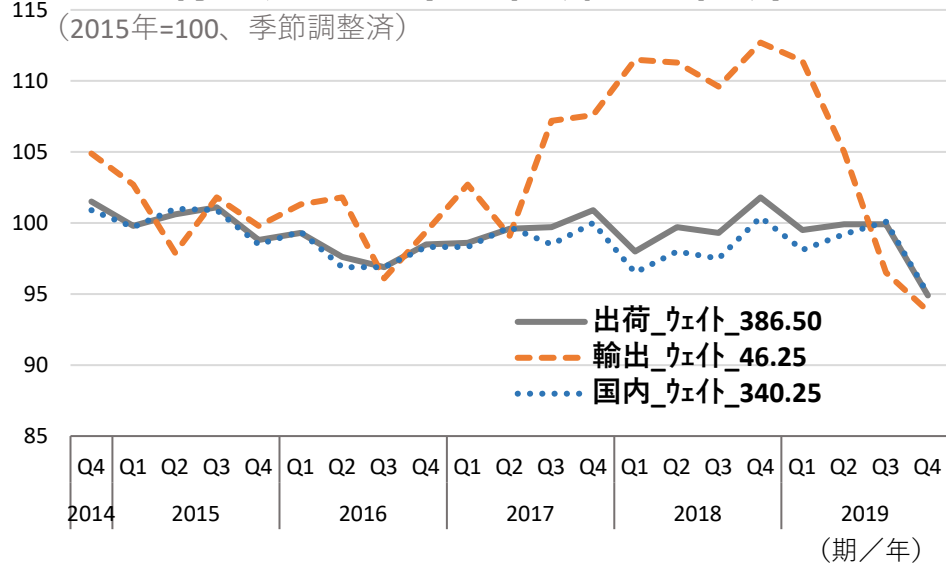


金属製品工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



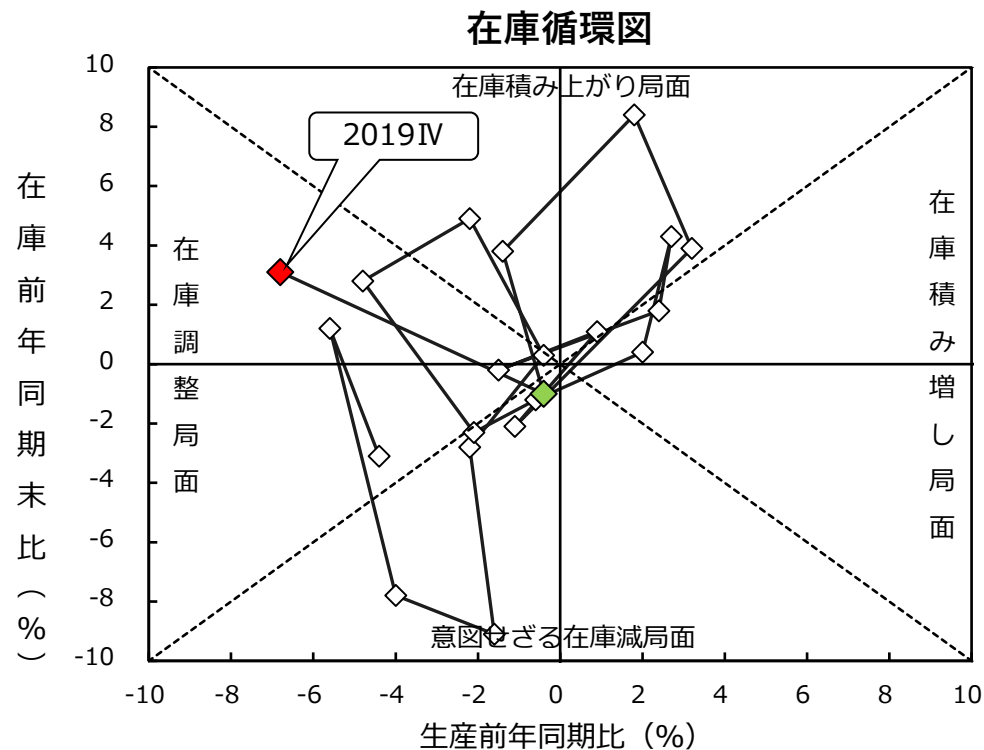
- ・生産の2019Q4は、建設用金属製品を除くすべての品目が低下寄与。
- ・在庫の2018Q4以降の上昇、低下は、主に暖房・調理等装置が寄与。
- ・輸出向け出荷の2017Q3以降の高水準は、粉末冶金製品によるものだが、2019Q1以降は急低下。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は3期ぶりの低下
 在庫指数は3期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は4期連続の低下
 国内向け出荷指数は3期ぶりの低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

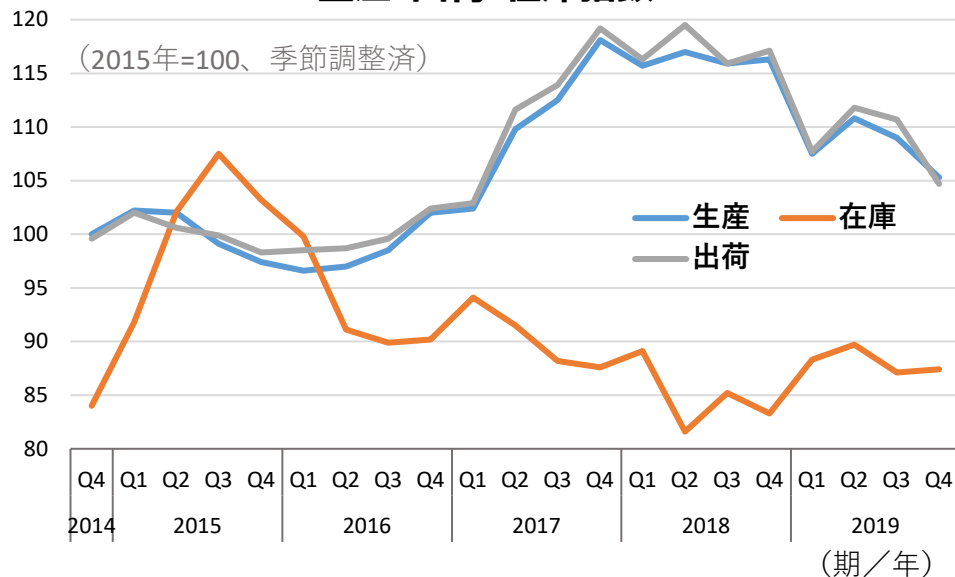
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



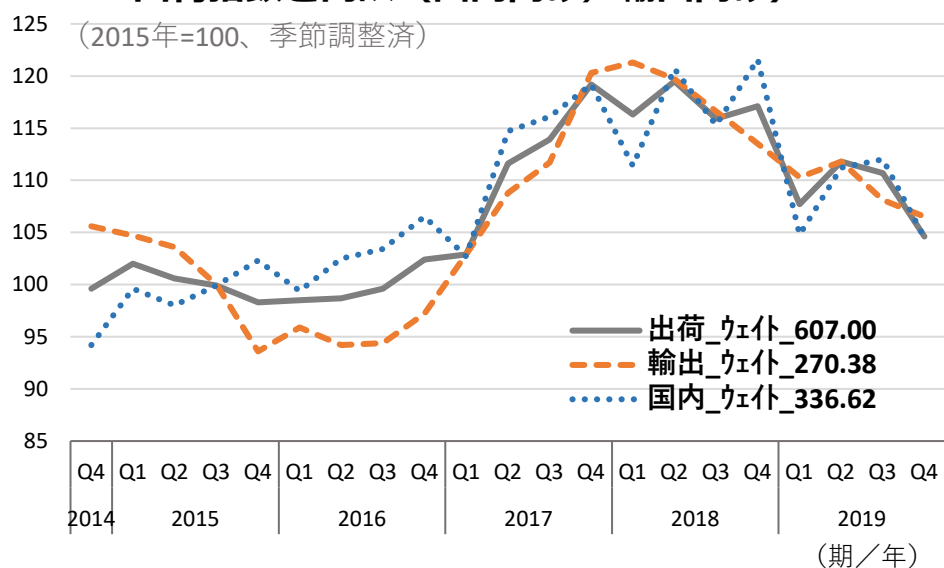
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

生産用機械工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

・生産は2017Q2以降、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置、金属加工機械等を中心に大幅に上昇し、高水準を維持してきたが、2019Q1にほとんどの品目の低下寄与により大幅低下となった。

・生産の2019Q4は、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置は上昇寄与（3期連続）も、建設・鉱山機械の低下寄与が大きかった。なお金属加工機械は7期連続低下。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下

出荷指数は2期連続の低下

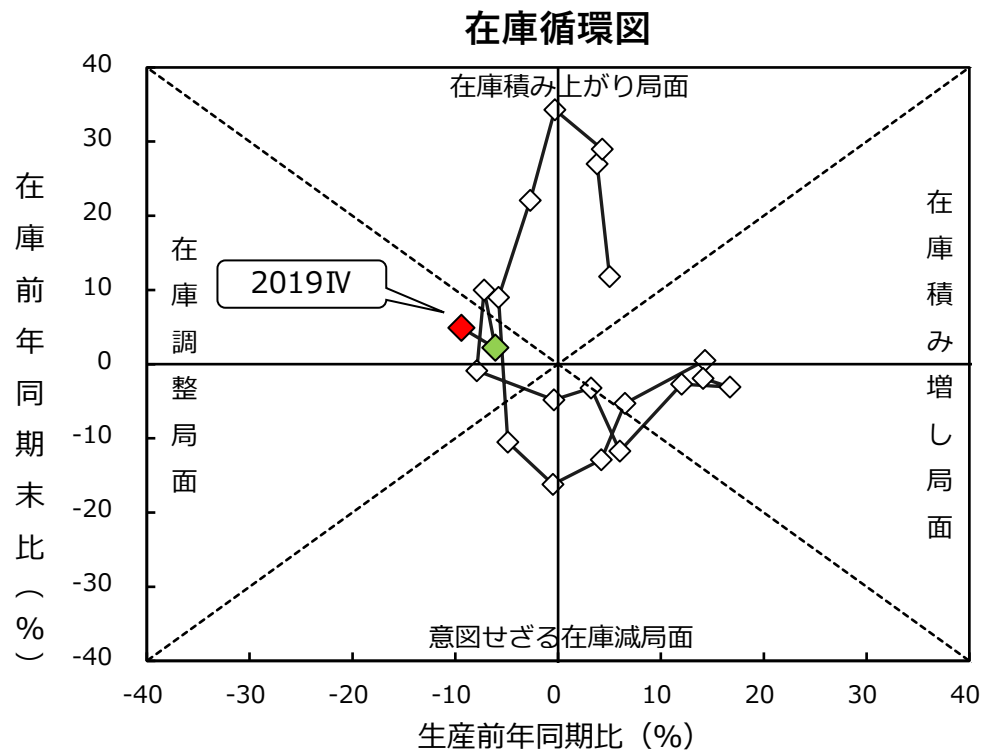
在庫指数は2期ぶりの上昇

輸出向け出荷指数は2期連続の低下

国内向け出荷指数は3期ぶりの低下

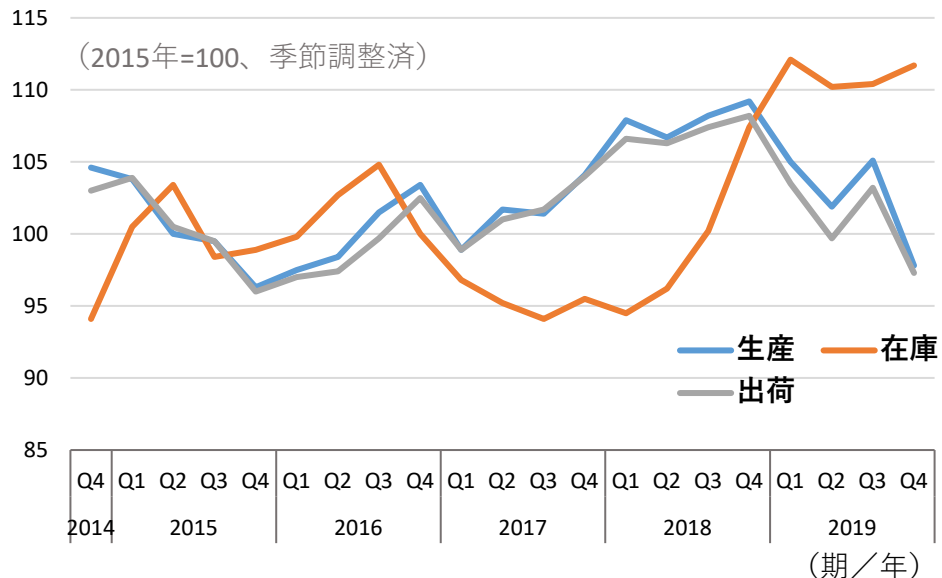
※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面

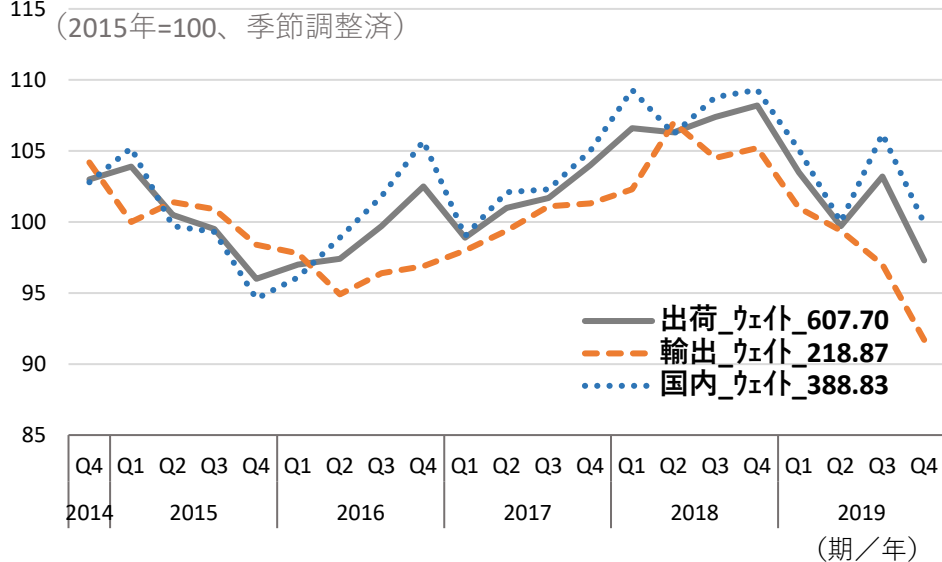


汎用・業務用機械工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



・生産の2017・2018の上昇は、ポンプ・圧縮機器、汎用機械器具部品等が大きく寄与。在庫の2018の大幅な上昇は、汎用機械器具部品、光学機器・レンズが主に寄与。

・生産の2019Q1は運搬装置、ポンプ・圧縮機器、Q2は主にボイラ・原動機が低下に寄与。Q3の上昇、Q4の低下は主に運搬装置が寄与。

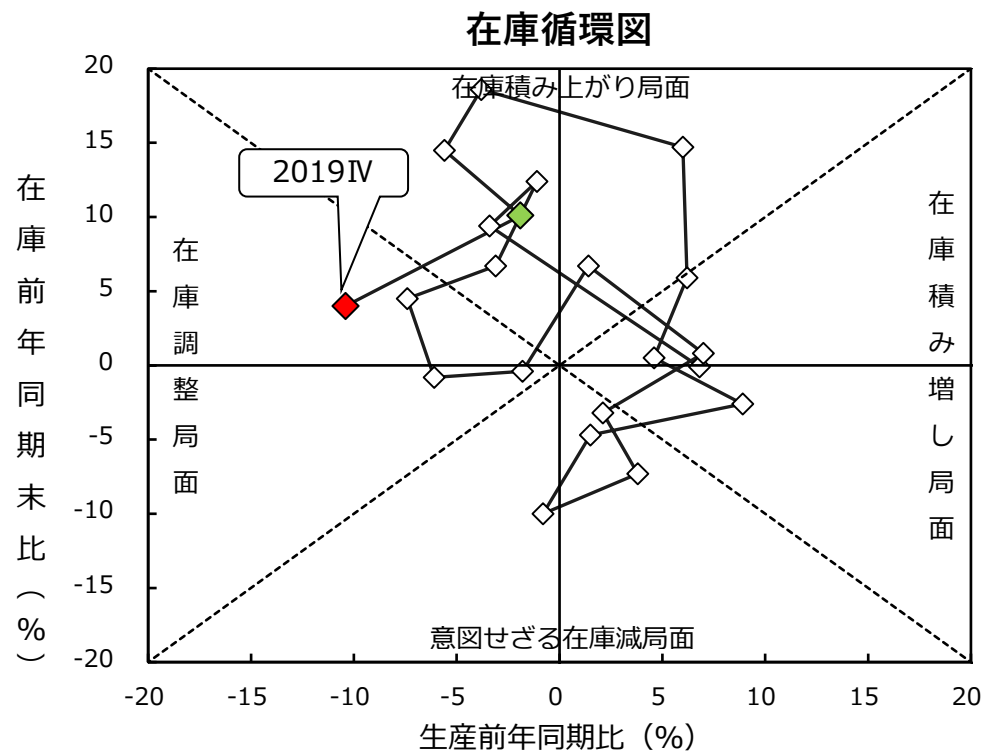
・輸出向け出荷の2019Q1以降の低下は、汎用機械器具部品、ボイラ・原動機が大きく寄与。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期ぶりの低下
 出荷指数は2期ぶりの低下
 在庫指数は2期連続の上昇
 輸出向け出荷指数は4期連続の低下
 国内向け出荷指数は2期ぶりの低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

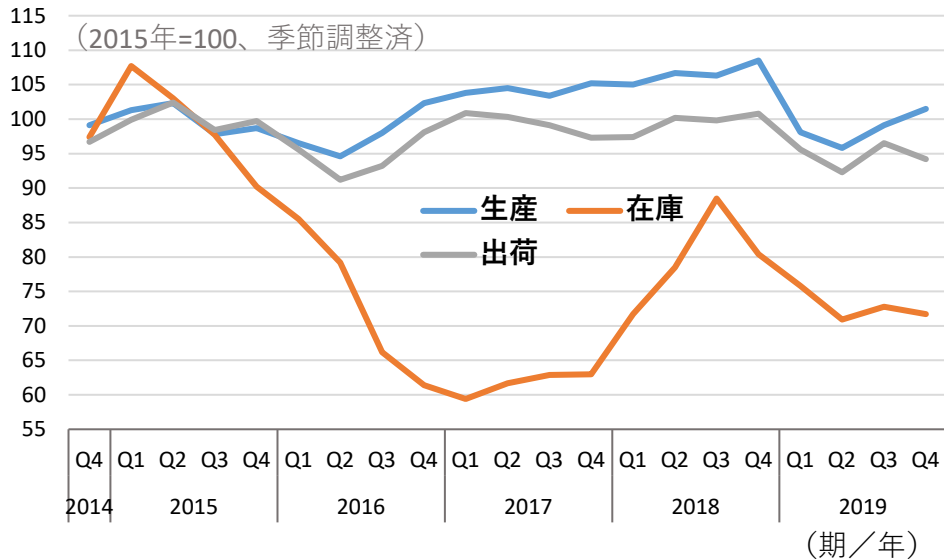
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



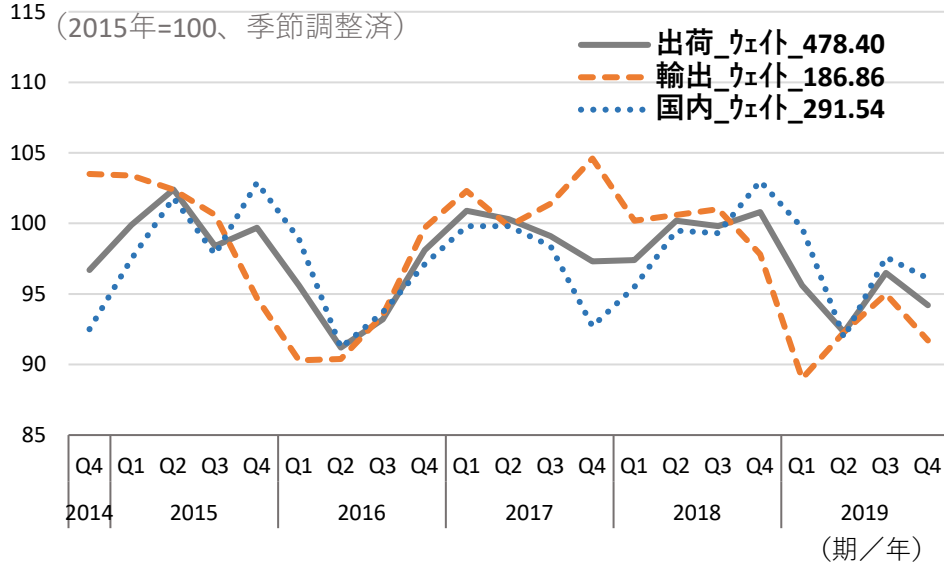
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

電子部品・デバイス工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)

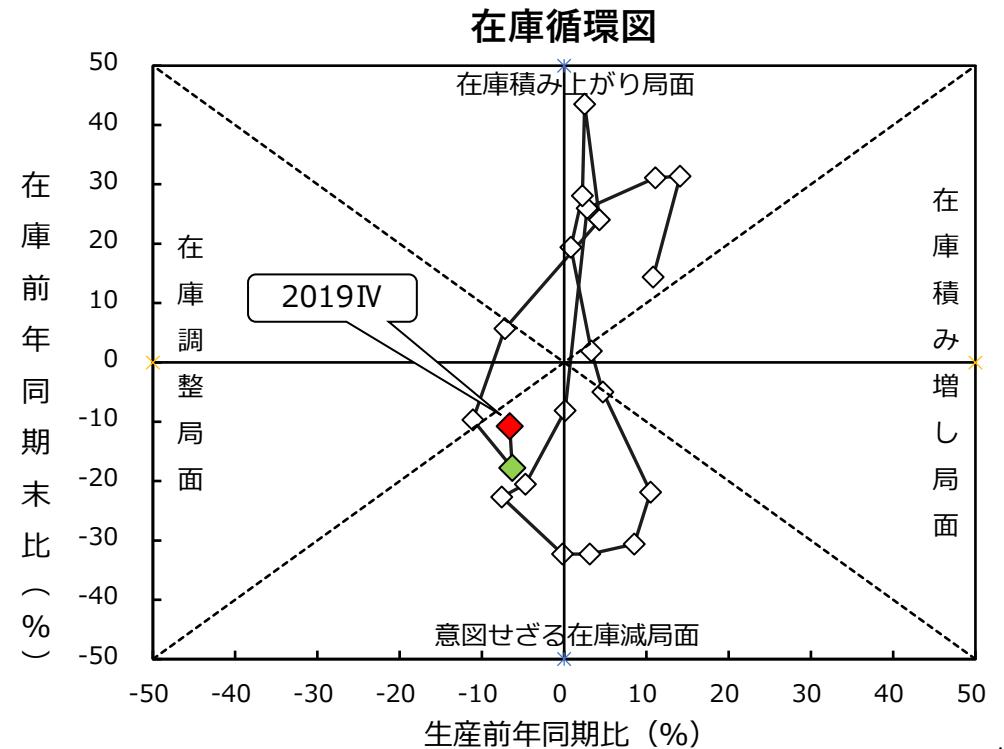


- ・生産の2019Q1の大幅な低下は集積回路、電子部品が大きく寄与。また2019Q1の出荷は、中国、ASEAN向けといった輸出向け出荷が低下に大きく寄与。
- ・生産の2019Q4の上昇は、主に集積回路が寄与（3期連続上昇）。
- ・在庫は低下傾向で推移しており、生産は持ち直しの動きをみせている。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の上昇
 出荷指数は2期ぶりの低下
 在庫指数は2期ぶりの低下
 輸出向け出荷指数は3期ぶりの低下
 国内向け出荷指数は2期ぶりの低下
 ※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

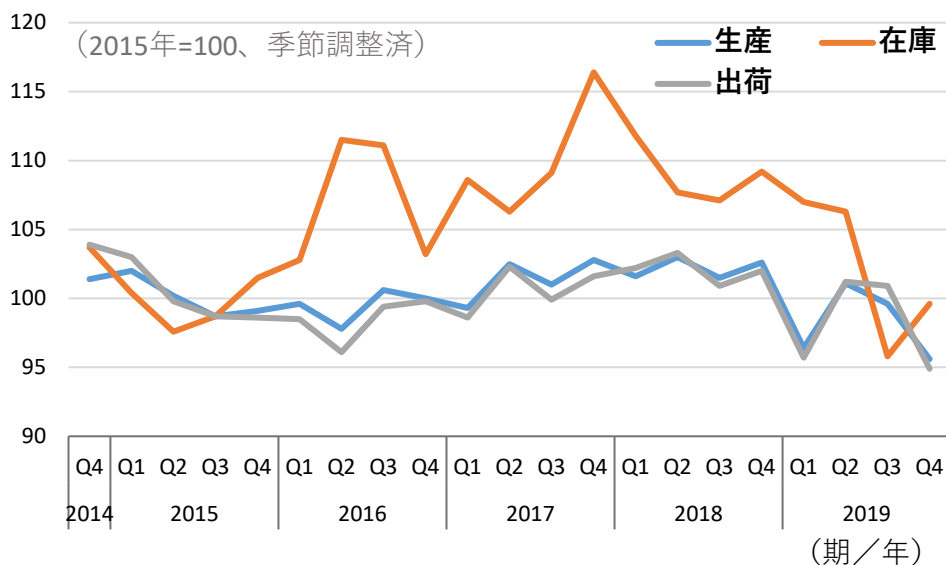
《2019年 第4四半期の在庫循環図》意図せざる在庫減局面



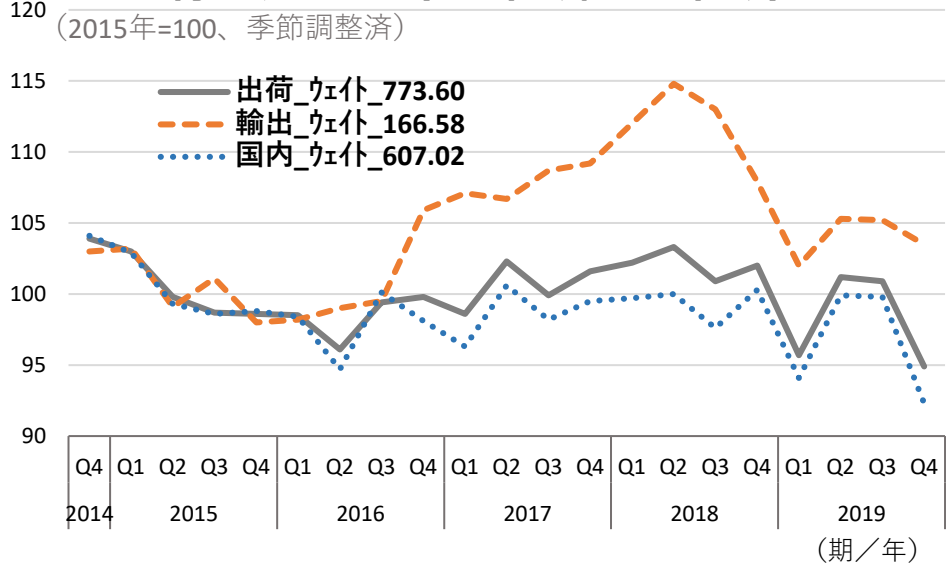
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

電気・情報通信機械工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



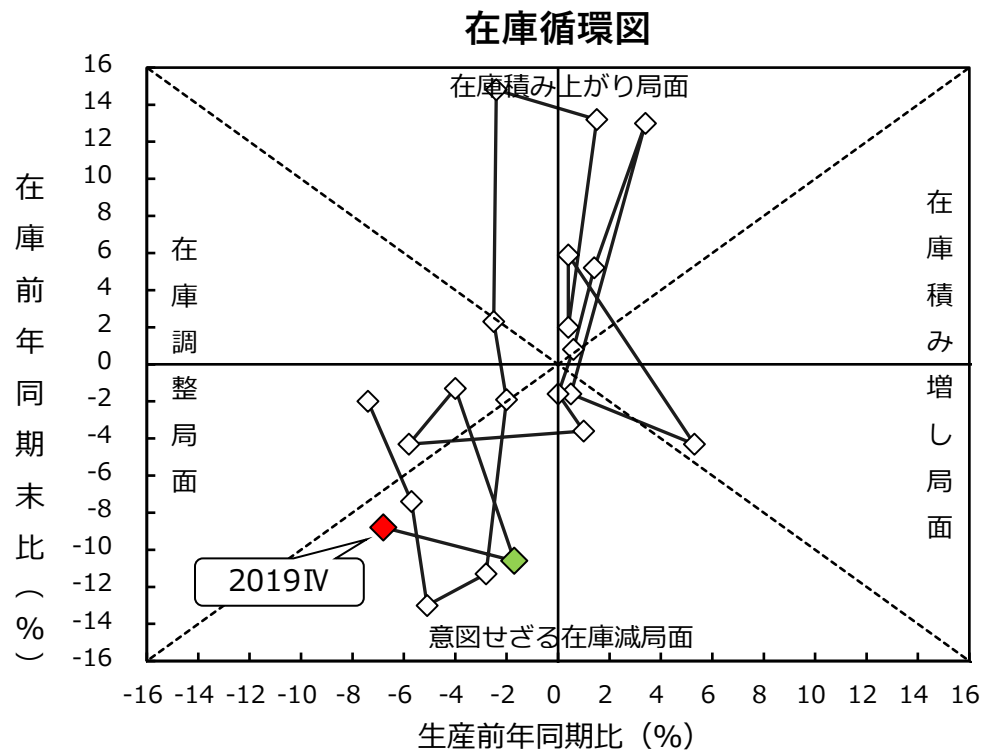
- ・2019Q2に大幅に上昇した電子計算機の生産は、以降3期連続で上昇寄与となったものの、2019Q4は、開閉制御装置・機器を始め、多くの品目が低下寄与。
- ・輸出向け出荷の2019Q1の低下は、中国向けが大きく寄与しており、次いで韓国、米国向けが寄与。
- ・在庫は2018Q1以降、低下傾向。2018は主にその他の電気機械、2019は主に民生用電子機械が低下寄与。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は2期連続の低下
 在庫指数は4期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は2期連続の低下
 国内向け出荷指数は2期連続の低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

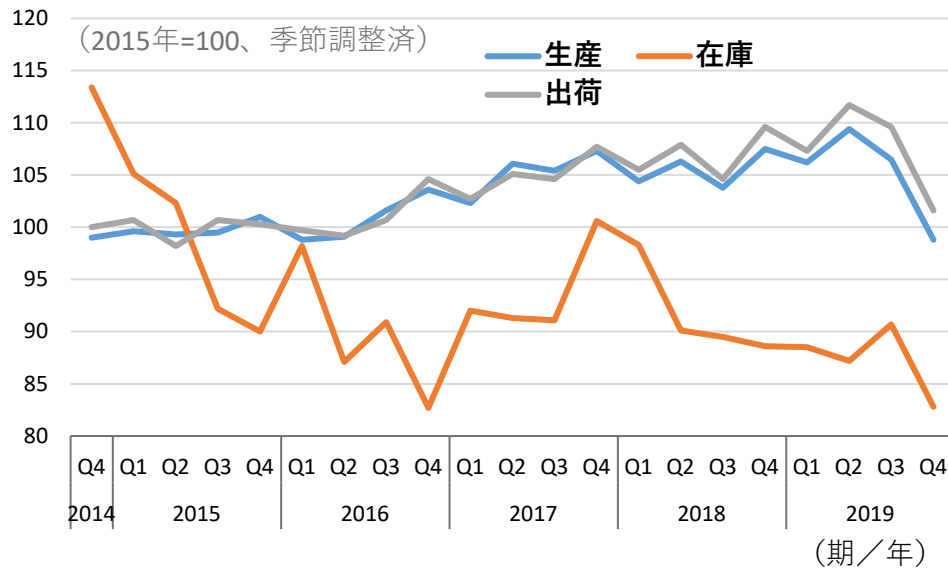
《2019年 第4四半期の在庫循環図》意図せざる在庫減局面



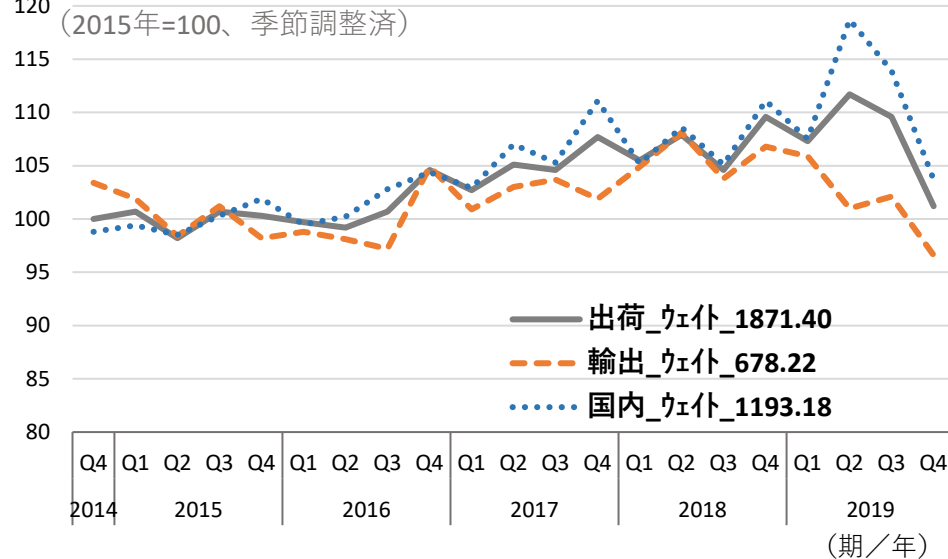
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

輸送機械工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



- ・生産は2019通年では上昇だが、2019Q3・Q4と連続で低下。乗用車、車体・自動車部品の寄与が目立つ。
- ・国内向け出荷は2019Q2に大幅に上昇したものの、Q3・Q4と低下。いずれも主に乗用車、次いで車体・自動車部品が寄与。
- ・輸出向け出荷の内訳をみると、乗用車は3期連続、車体・自動車部品は6期連続低下。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下

出荷指数は2期連続の低下

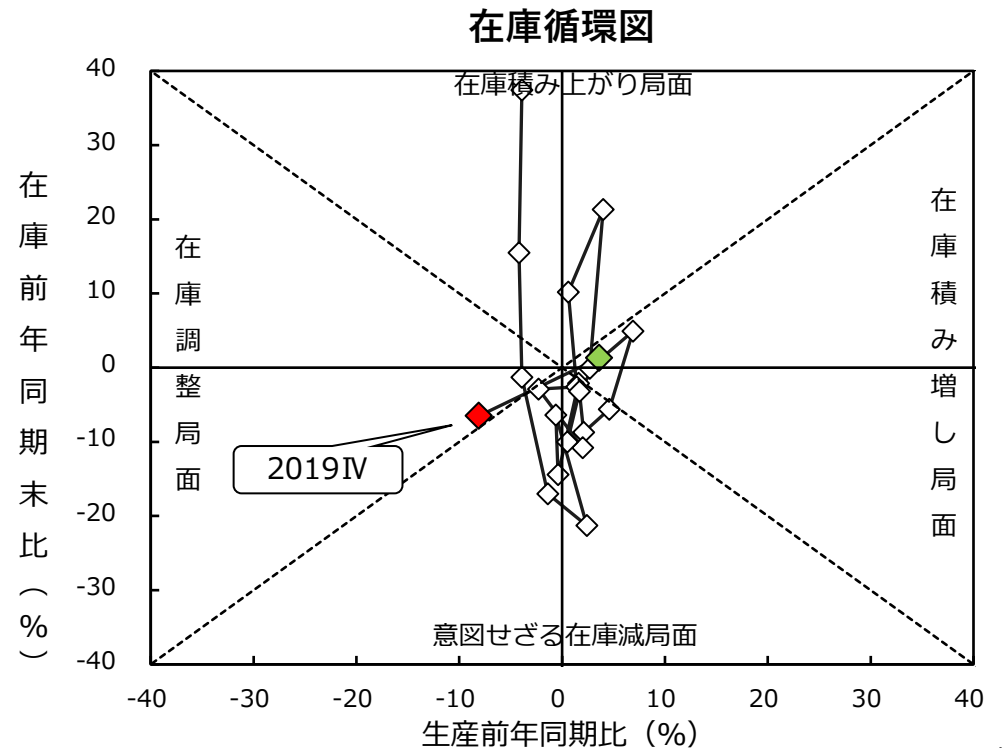
在庫指数は2期ぶりの低下

輸出向け出荷指数は2期ぶりの低下

国内向け出荷指数は2期連続の低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

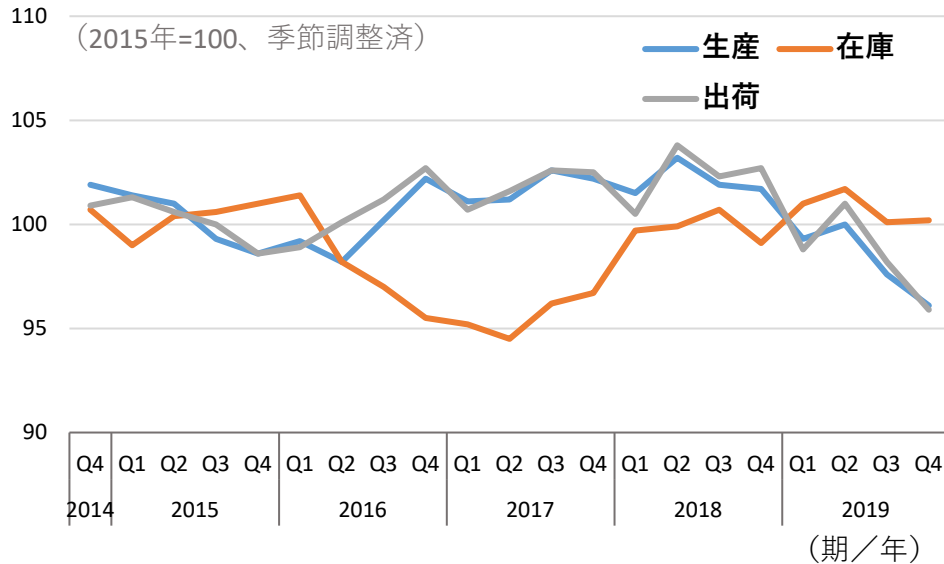
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



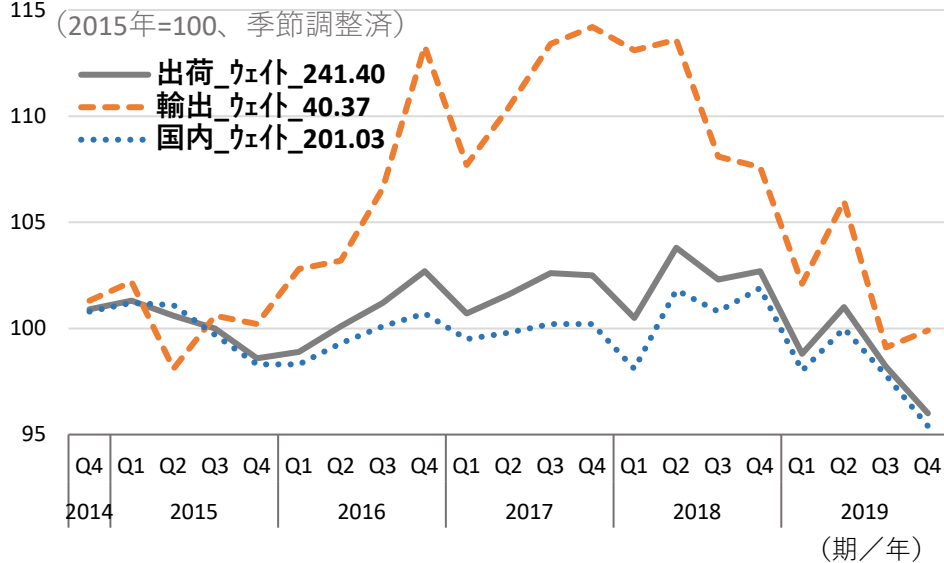
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

窯業・土石製品工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)

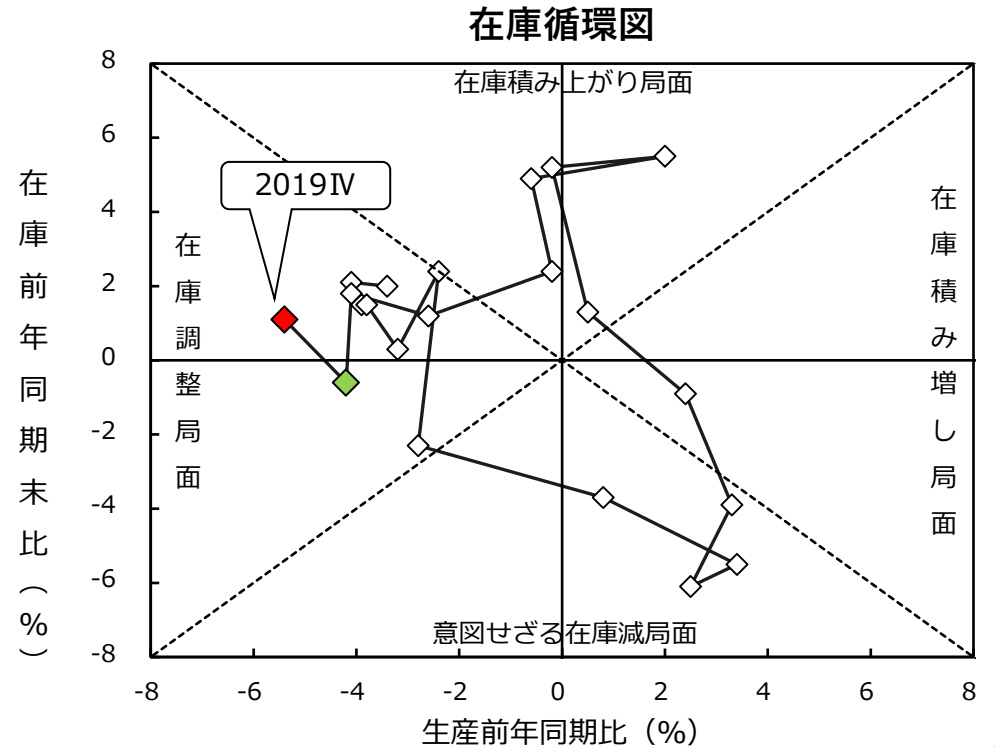


- ・生産の2018Q3・Q4の低下は、ガラス・同製品、その他の窯業・土石製品等が寄与。
- ・輸出向け出荷の2016・2017の上昇、2018・2019の低下は、いずれも陶磁器・同関連製品が大きく寄与。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は2期連続の低下
 在庫指数は2期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は2期ぶりの上昇
 国内向け出荷指数は2期連続の低下
 ※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

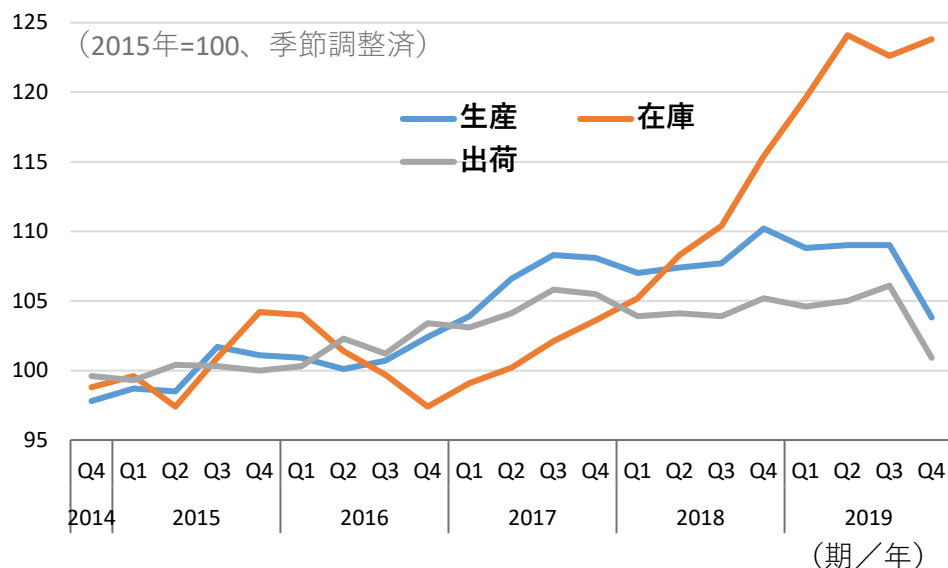
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



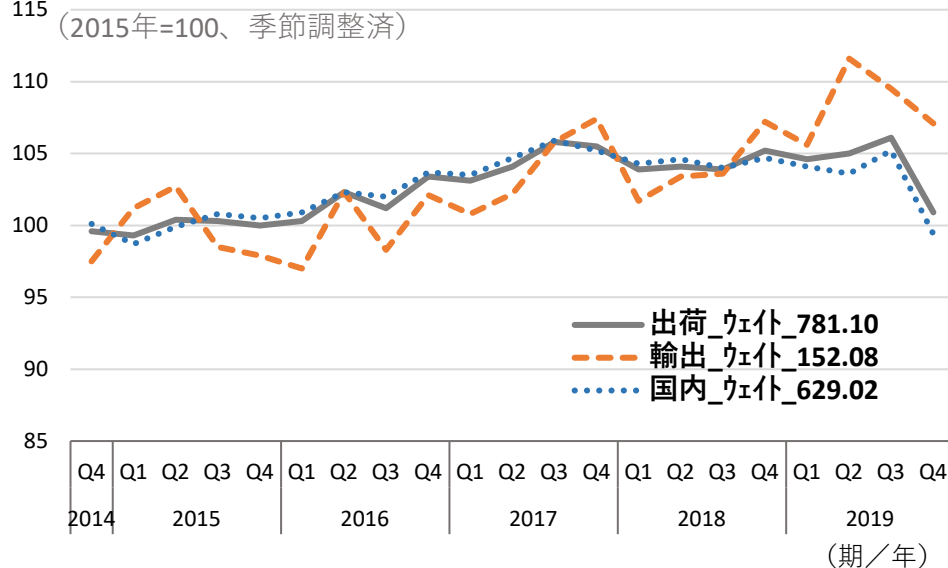
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

化学工業（除、医薬品）の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳（国内向け／輸出向け）



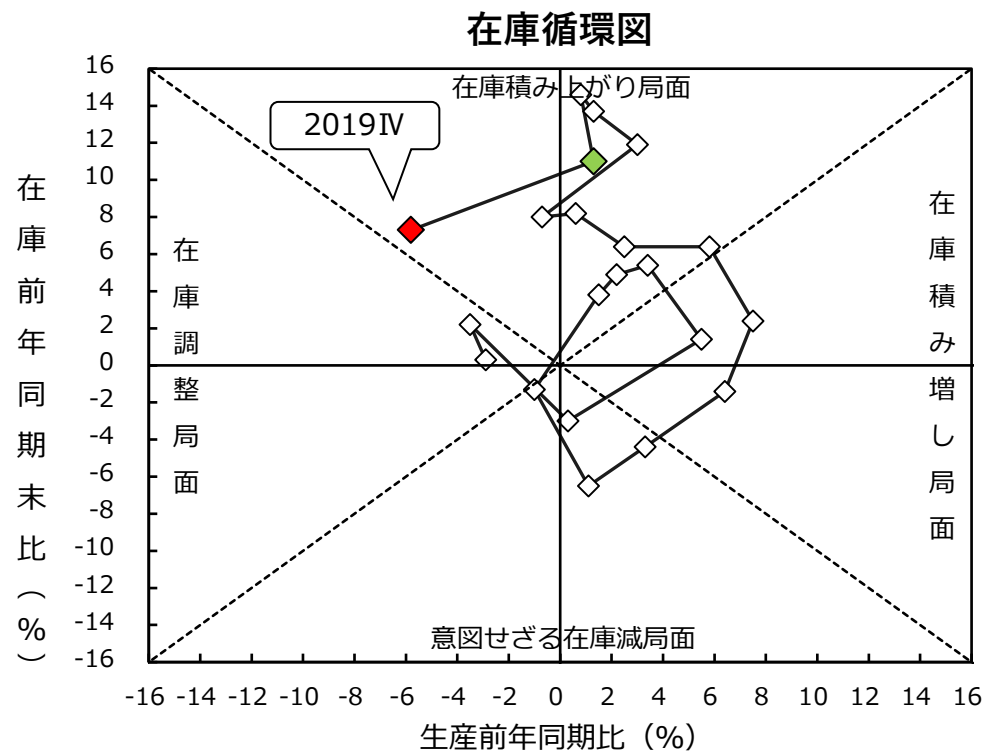
- ・生産の2018までの上昇は、主に化粧品がけん引。その化粧品も2019Q1は低下に大きく寄与。Q4は、化粧品、洗剤・界面活性剤等、すべての品目が低下寄与。
- ・在庫の2017以降の上昇は、化粧品、プラスチックが大きく寄与。在庫積み上がり局面が続いている。
- ・輸出向け出荷の上昇も、主に化粧品がけん引して上昇傾向で推移してきたものの、2019Q3・Q4は、石油化学系基礎製品、環式中間物等の低下寄与により、連続低下。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は3期ぶりの低下
 出荷指数は3期ぶりの低下
 在庫指数は2期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は2期連続の低下
 国内向け出荷指数は2期ぶりの低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

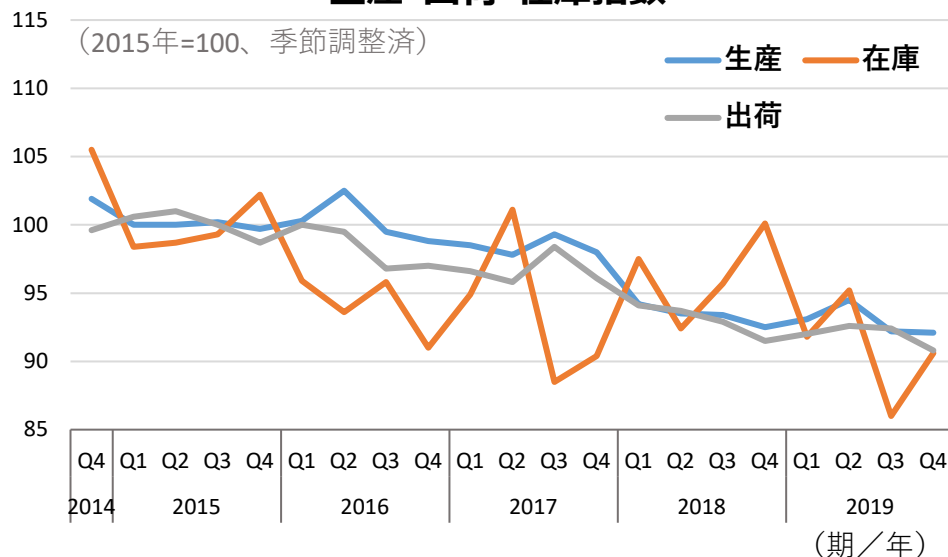
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫積み上がり局面



(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

石油・石炭製品工業の動向

生産・出荷・在庫指数



- ・生産・出荷は、低下傾向で推移。
- ・輸出向け出荷は大幅な上昇、低下を繰り返しているが、出荷全体に占める輸出向け出荷の割合は低い。

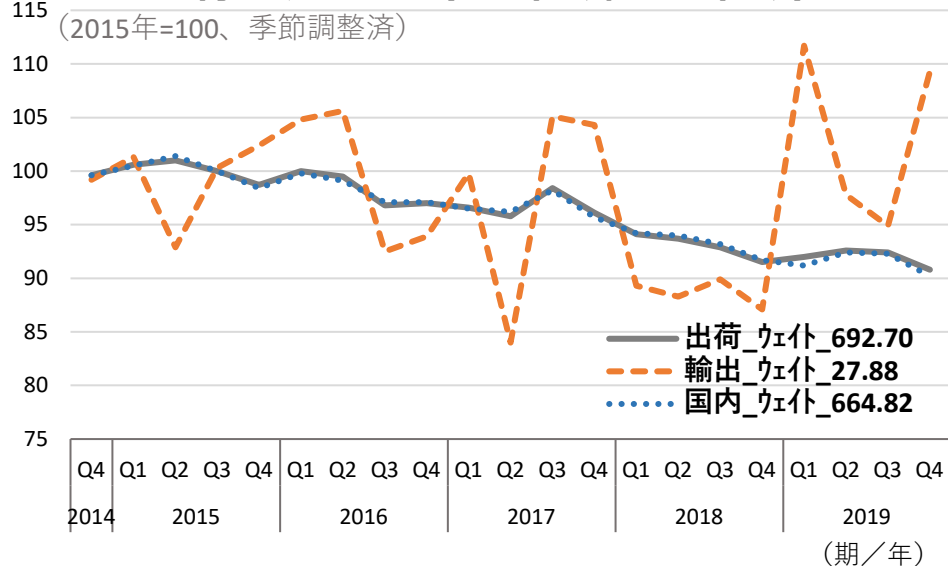
《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は2期連続の低下
 在庫指数は2期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は3期ぶりの上昇
 国内向け出荷指数は2期連続の低下

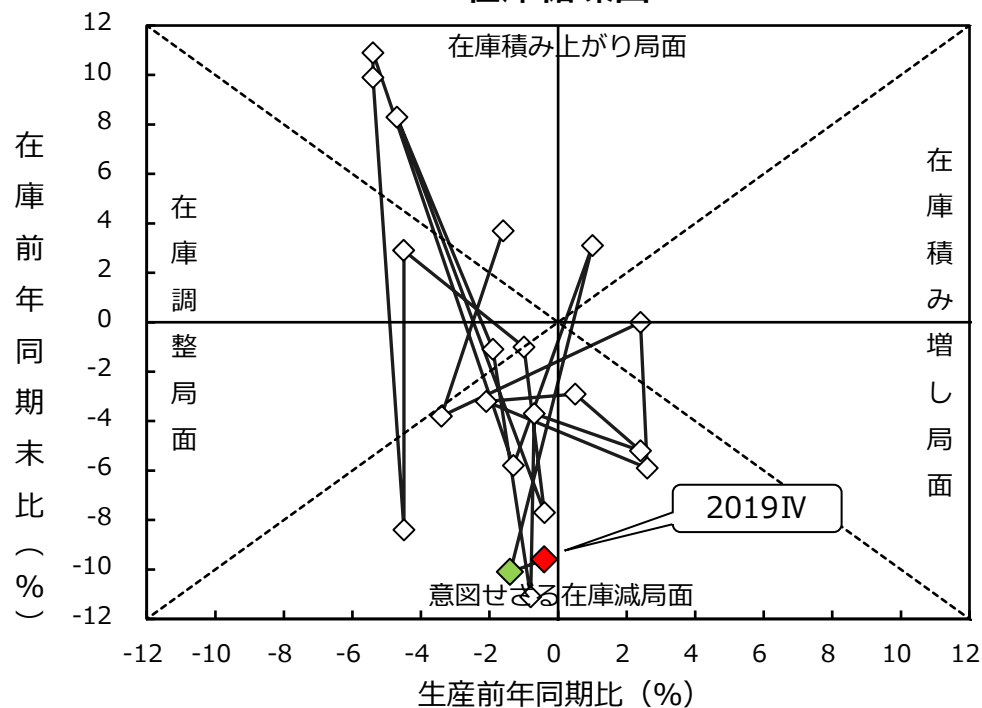
※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

《2019年 第4四半期の在庫循環図》意図せざる在庫減局面

出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



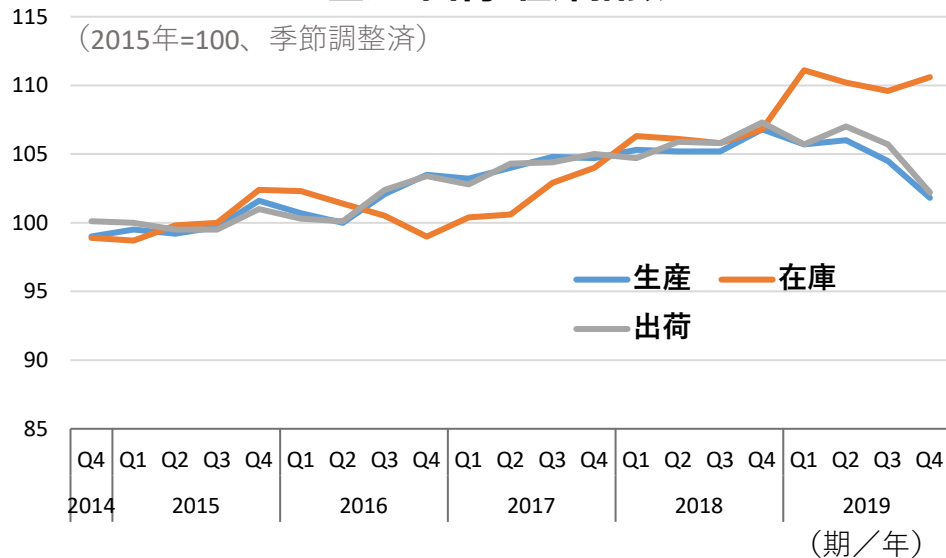
在庫循環図



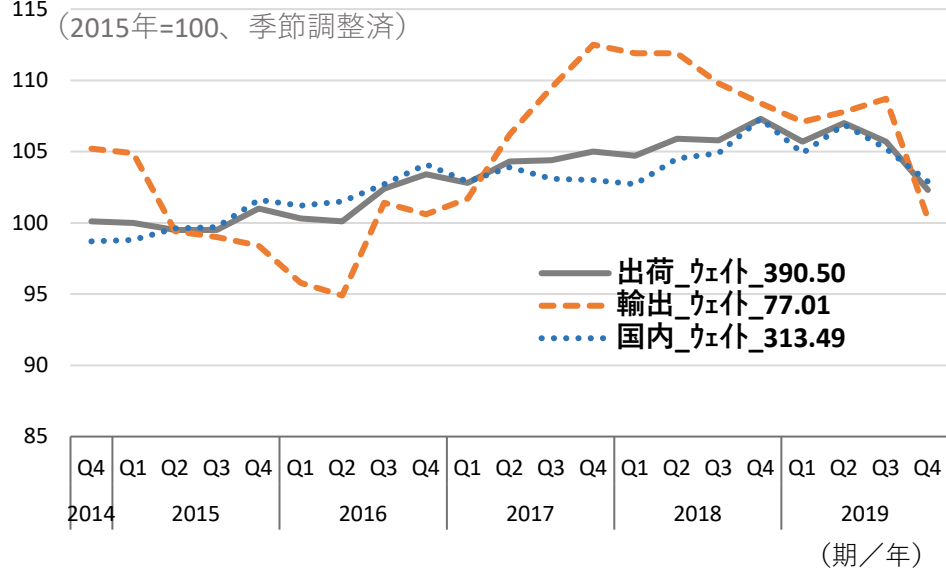
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

プラスチック製品工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け/輸出向け)



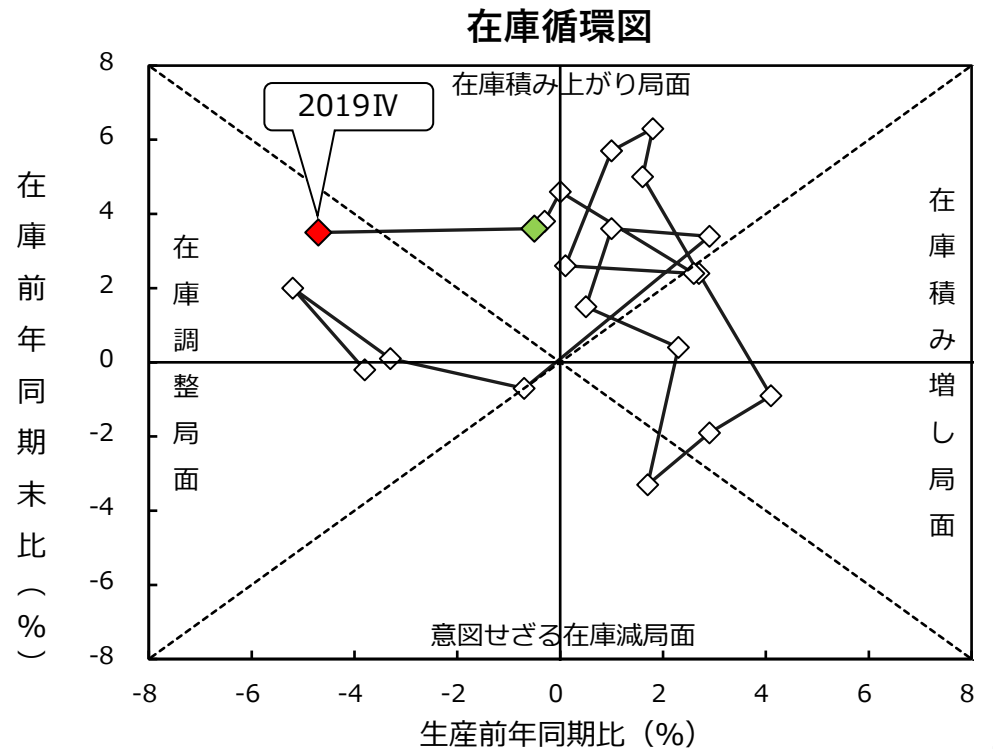
- ・ここ数年の生産・出荷は工業用プラスチック製品、プラスチック製日用雑貨・容器類等の寄与により上昇傾向で推移してきた。
- ・生産の2019Q3・Q4の低下は、工業用プラスチック製品が大きく寄与。
- ・輸出向け出荷の2019Q4は、中国、韓国、台湾向け等が低下寄与。
- ・在庫は上昇傾向。2019Q4はプラスチック製管・フィルム・シート・建材類等の上昇寄与もあり、在庫積み上がり局面から在庫調整局面へ。

《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期連続の低下
 出荷指数は2期連続の低下
 在庫指数は3期ぶりの上昇
 輸出向け出荷指数は3期ぶりの低下
 国内向け出荷指数は2期連続の低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

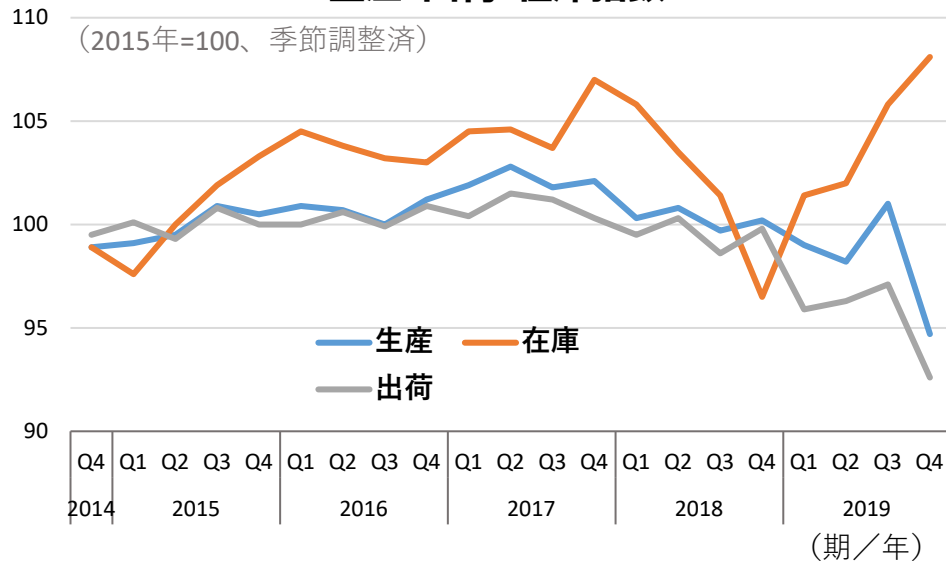
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



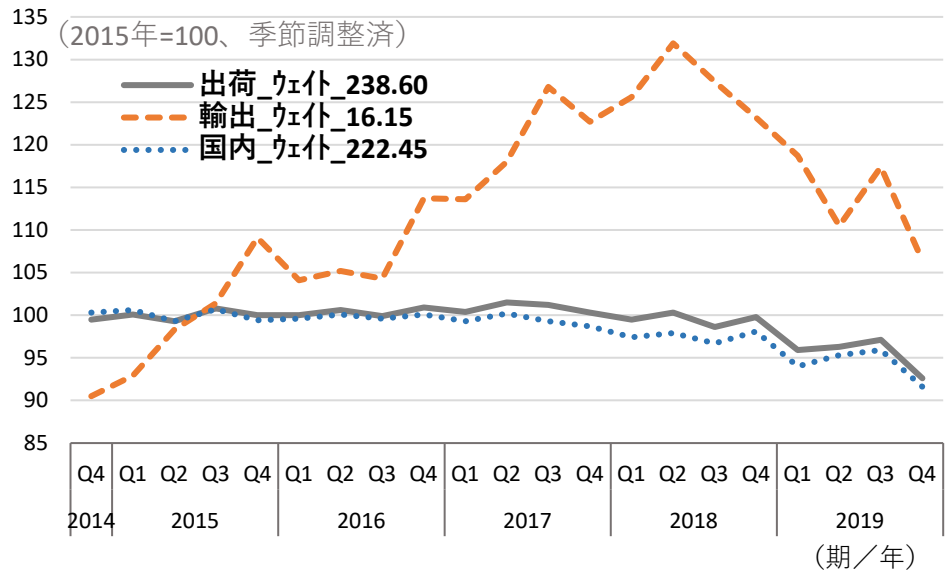
(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

パルプ・紙・紙加工品工業の動向

生産・出荷・在庫指数



出荷指数と内訳 (国内向け／輸出向け)



- ・生産・出荷は2017後半より低下傾向で推移しているが、国内向けの紙が大きく低下に寄与。乳幼児用紙おむつといった紙加工品等が好調に推移していた輸出向けも、2018Q3以降は紙が大きく低下に寄与し、急落。
- ・生産の2019Q4は、紙、パルプ、紙加工品が低下寄与。
- ・在庫の2019Q1以降の急上昇は、紙、板紙が主に寄与。在庫積み上がり局面が続いている。

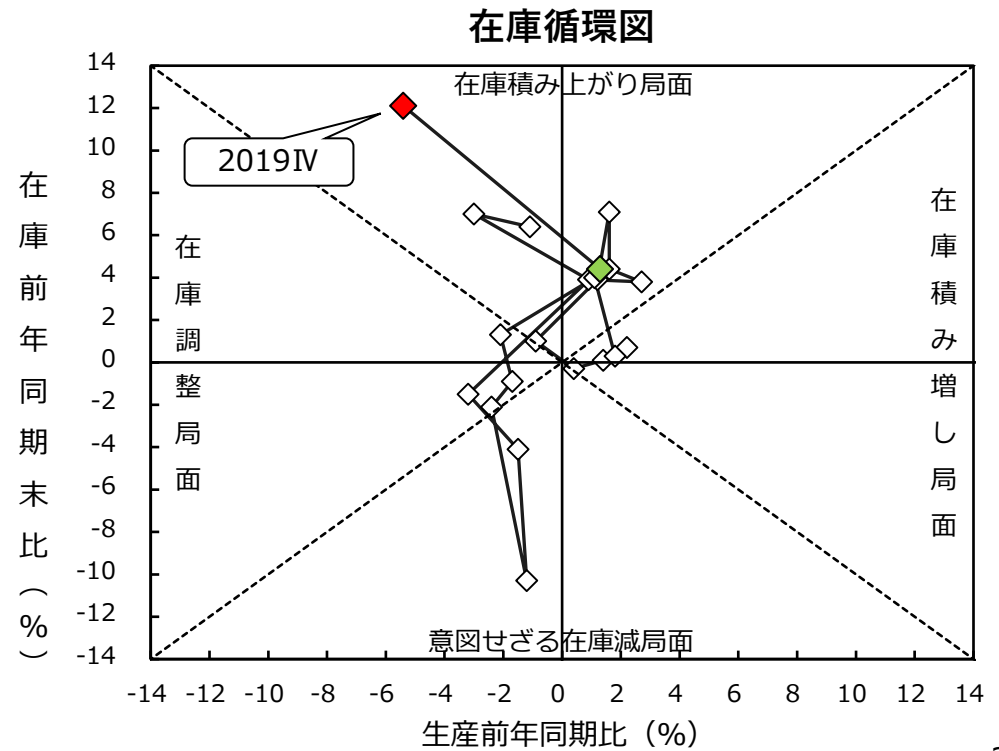
《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は2期ぶりの低下
出荷指数は3期ぶりの低下
在庫指数は4期連続の上昇

輸出向け出荷指数は2期ぶりの低下
国内向け出荷指数は3期ぶりの低下

※最新期の鉱工業指数の出荷は確報値、出荷内訳表の出荷は速報値。

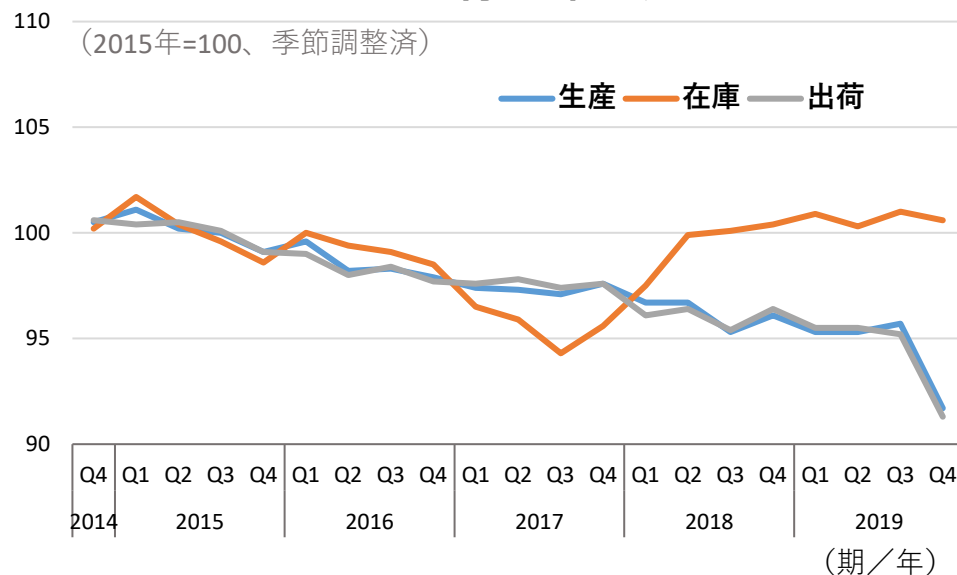
《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫積み上がり局面



(資料) 「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」

その他工業の動向

生産・出荷・在庫指数



・生産は、低下傾向で推移しており、印刷が低下に大きく寄与。

・生産の2019Q4は、印刷、ゴム製品、家具等、ほとんどの品目が低下寄与。

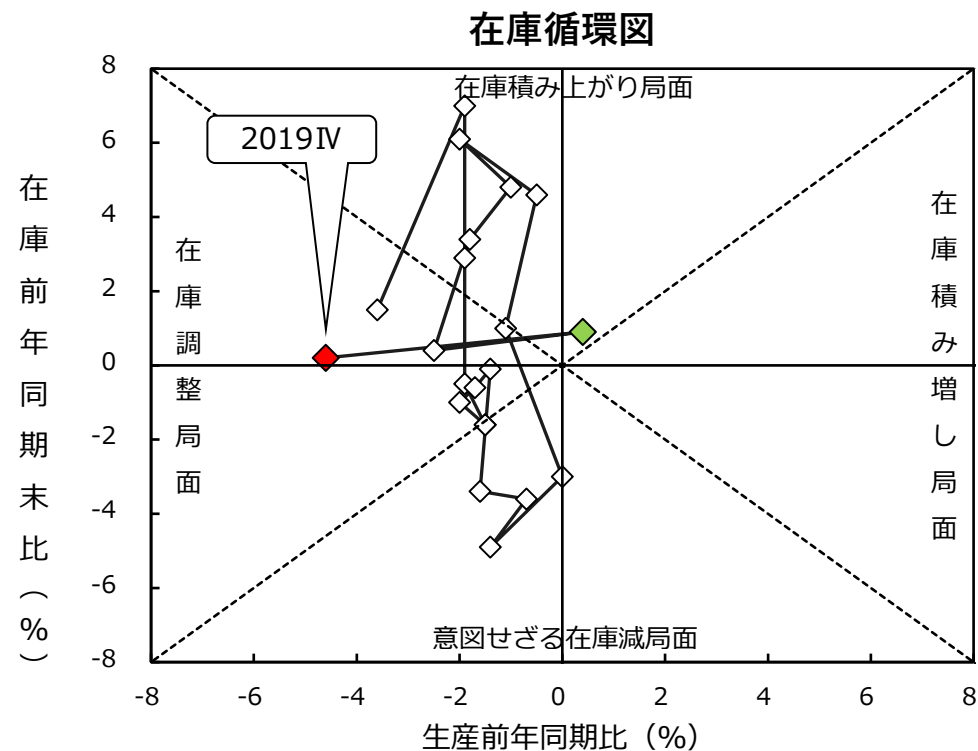
《2019年 第4四半期の季節調整済指数》

生産指数は3期ぶりの低下

出荷指数は2期連続の低下

在庫指数は2期ぶりの低下

《2019年 第4四半期の在庫循環図》在庫調整局面



製造工業生産予測指数 (2020年1月調査)

(2019年 1 2月実績)

(2020年 1月見込み)

(2020年 2月見込み)

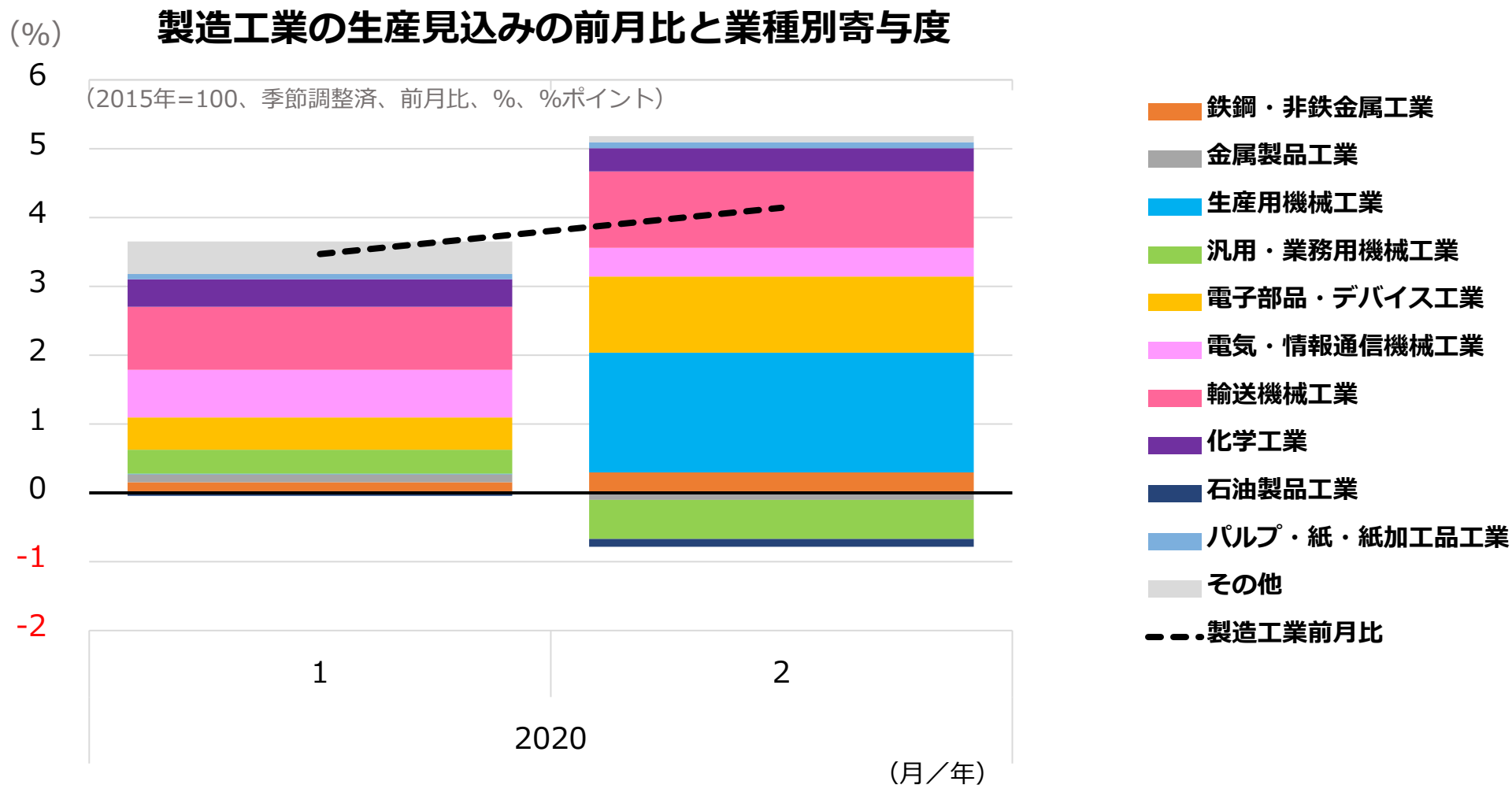
製造工業生産予測指数とは？

元データは、製造企業の生産計画を品目単位で調査する「製造工業生産予測調査」。
毎月、企業の品目別の「生産計画量」または「見込み量」を具体的な数量で調査。
調査月の前月の実績並びに、当月及び翌月の生産計画を指数化したものが、
製造工業生産予測指数。

製造工業の生産見込みの前月比と業種別寄与度

2020年1月調査における製造工業の生産見込みであるが、2020年1月は3.5%、2月は4.1%の上昇の見込み。なお、2月については見込みが比較的下方修正されやすい生産用機械工業が大きく寄与している点に留意。

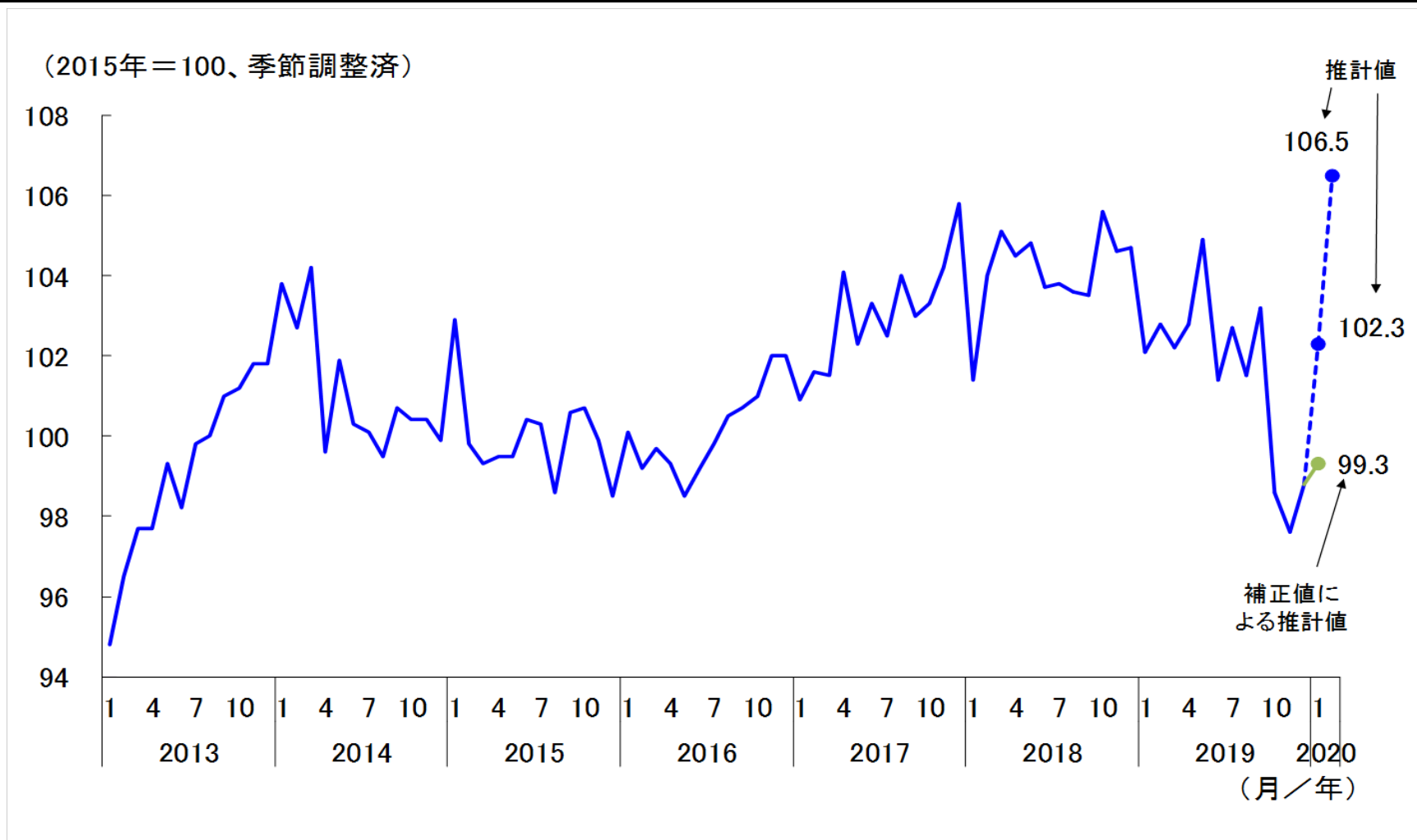
(1月調査の結果であるため、新型コロナウイルス感染症の影響が生産見込みに反映されていないことに留意。)



生産計画、補正值で鉱工業指数（季節調整値）を延長

鉱工業生産指数の1月見込みを製造工業生産予測指数の前月比（生産計画）から推計すると、102.3であるが、補正值から推計すると、99.3と2か月連続の上昇を見込む。

※なお、1月調査の結果であるため、新型コロナウイルス感染症の影響が含まれていないことに留意。



(注)補正值は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したものです。

こちら是非御覧下さい！

◎ミニ経済分析：色々なテーマあります



ぜひお手持ちの電話で
QRコードを読み取って
下さい！！

動きの見える経済指標など、
ひと言解説、ミニ経済分析、

【問合せ先】

ご不明な点はコチラにお問合せください。

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1644(直通)

FAX：03-3501-7775

E-MAIL：qqcebc@meti.go.jp